

令和3年度サステナブルな観光コンテンツ強化事業

「姫街道(中山道)の手仕事を紐解きアドベンチャー

ツーリズムの本髄に迫る旅の創出事業」

業務実施報告書

令和5年2月

国土交通省北陸信越運輸局
(受託事業者：株式会社日本旅行)

目次

1. 業務概要.....	1
2. 連携主体関係者会議の開催	3
3. 受入環境の調査.....	11
4. ガイド人材の育成.....	14
5. モニターツアー及びファムトリップの実施	22
6. モデルツアーの造成及びタリフ作成.....	38
7. 情報発信・販路開拓等に資する制作物の作成.....	42
8. 業務の総括ならびに今後の課題.....	51
【参考資料】	61
1) 別添資料①受入環境調査結果(宿泊施設/施設環境/移動環境/人材環境)	61
2) 別添資料②タリフ【英語版】(上伊那/木曽/南信州)	64
3) 別添資料③体験記事(上伊那/木曽/南信州)	67

1. 業務概要

業務目的：

新型コロナウイルス感染症拡大以降、オーバーツーリズム対策や観光資源の保全をはじめとした持続可能な観光地経営が求められており、あわせて旅行者によるサステナブルな観光へのニーズも高まっている。

観光庁では、ポスト・コロナ時代を見据え、サステナブルな観光を希望する訪日外国人旅行者をターゲットに、自然、文化、地域本来の生活(生業)といった豊富な地域資源の保全と活用の両立と、旅行者の新たなニーズに対応する基盤整備のため、日本版持続可能な観光ガイドライン(JSTS-D)との関連性を持たせた「サステナブルな観光コンテンツ強化事業」を実施している。

活用で得た収益による地域資源の保全や、旅行者が地域の持続性を体験・貢献できる受入環境の整備等の取組により、旅行観光消費額の増加や満足度向上につながる観光資源の磨き上げを図り、各地域での自立的・継続的な取組を促進する。

業務期間：

令和4年3月17日(木) から令和5年2月28日(火)まで

取組テーマ：

姫街道(中山道)周辺地域には、農家の手仕事(副業)を発端とする数多くの伝統工芸がある。本事業においては、製作工程の再現や体験、匠の技術の紹介を誘客コンテンツとして磨き上げながら、それらを守り続けてきた地域住民との交流を促し、この伝統工芸が後世に残されることに寄与する滞在型コンテンツを造成することをテーマとする。

対象地域：

姫街道(中山道)周辺地域(伊那谷、南信州、木曽路等)

観光資源：

- ・木曽漆器、お六櫛
- ・伊那紬をはじめとしたシルク繊維産業遺構
- ・飯田水引工芸
- ・木曽赤沢自然休養林、木曽五木の木工体験
- ・各地域のゲストハウスや、農家民泊、上記資源に所縁のある宿泊施設等

対象市場・ターゲット：

日本の伝統文化に関心のある欧米豪出身者

業務内容：

- 連携主体関係者会議の開催
- 受入環境の調査
- ガイド人材の育成
- モニターツアー及びファムトリップの実施
- モデルツアーの造成及びタリフ作成
- 情報発信・販路開拓等に資する制作物の作成
 - ―動画制作
 - ―体験記事の作成及び掲載
 - ―ランディングページの制作及びコンテンツの販路確保

期待する効果：

コンテンツ造成数3本以上

成果物：

- 報告書 3部
- 報告書概要版（一般公開可能なもの） 3部
- 造成したモデルツアーの内容がわかるもの（タリフ等）
- 制作した動画、体験記事、ランディングページ
- 事業を通して撮影した写真画像

2. 連携主体関係者会議の開催

取組体制の構築、コンテンツ造成及び販路検討等の場として連携主体関係者会議を全6回開催した。本会議の主な構成員・出席者は、以下に示す上伊那・木曽・南信州の地域DMO等の方々であるが、コンテンツ造成の作り込みの段階においては、各地域の事業者の皆様、ガイドの皆様にも積極的にご参画頂いた。

●関係者一覧

【地域DMO等】

(順不同・敬称略)

所属	役職等	氏名
株式会社南信州観光公社	地域振興事業部長	竹前 雅夫
株式会社南信州観光公社	事務局長	岡本 健
株式会社南信州観光公社	-	山本 秀子
飯田市 産業経済部 商業観光課	係長	今村 浩二
一般社団法人長野伊那谷観光局	理事 兼 事務局長	江橋 秀久
一般社団法人長野伊那谷観光局	広域観光係長	殿内 博信
木曽観光連盟	事務局長	田澤 文章
一般社団法人木曽おんたけ観光局	専務理事	丸山 文広
一般社団法人上松町観光協会	事務局長	松原 和恵
一般社団法人南木曽町観光協会	事業主任	大日方 直博
木祖村役場	商工観光係長	高柳 政次
一般社団法人木祖村観光協会	専務理事	圃中 登志彦
林野庁 中部森林管理局	森林技術指導官	遠山 京一

【事業者等】

所属	役職等	氏名
久保田織染工業株式会社	代表取締役社長 伝統工芸士	久保田 治秀
久保田織染工業株式会社	専務取締役	久保田 貴之

駒ヶ根シルクミュージアム	館長	中垣 雅雄
ひさかた和紙の会	事務局長	羽場 竜也
ひさかた和紙の会	(地域おこし協力隊)	大橋 正幸
有限会社関島水引店	代表取締役	関島 正浩
有限会社関島水引店	専務取締役	関島 直人
お六櫛保存組合	組合長	篠原 修
お六櫛保存組合	副組合長	柳川 浩司

【ガイド】

所属	役職等	氏名
-	全国通訳案内士	古田 大
南木曽地域おこし協力隊	-	佐藤 智史
南木曽地域おこし協力隊	-	ニック・カール
平谷村地域おこし協力隊	-	マイケル・キング
-	全国通訳案内士	平沢 健太郎

全6回の開催概要は以下のとおりである。

●第1回

初回は3エリアに分けて開催し、本事業の趣旨説明による基本認識のすり合わせ、造成するコンテンツの要件や指針の確認、対象となる地域資源の候補や検討状況等の議論を行った。

<上伊那>

日時	令和4年5月11日(水)10:00~11:00
場所	オンライン会議 (Z o o m)
出席者	長野伊那谷観光局：江橋様、殿内様 北陸信越運輸局：廣井 長野県観光機構：三井様、石川様 日本旅行：牧内、秋山 地域ブランディング研究所：吉田、小島、青木、佐藤
主な議題	1. 本事業の説明 2. 造成するコンテンツについて 3. 地域資源について

<南信州>

日時	令和4年5月12日(木)10:00～11:00
場所	オンライン会議（Z o o m）
出席者	南信州観光公社：竹前様、岡本様 北陸信越運輸局：近藤、廣井、山田、西脇 長野県観光機構：金子様、三井様、石川様 日本旅行：牧内、久下、秋山 地域ブランディング研究所：吉田、青木、佐藤
主な議題	同上

<木曽>

日時	令和4年5月13日(金)13:00～14:00
場所	オンライン会議（Z o o m）
出席者	木曽観光連盟：田沢様 木曽おんたけ観光局：丸山様 南木曽町観光協会：大日方様 北陸信越運輸局：近藤、山田、西脇 長野県観光機構：金子様、三井様、石川様 日本旅行：久下、秋山 地域ブランディング研究所：吉田、小島、青木、佐藤
主な議題	同上

●第2回

第2回も3エリアに分けて開催し、各種検討結果を踏まえて、より具体的な造成イメージや商品化に至るまでのステップ等についての共有とすり合わせ、議論を行った。

<南信州>

日時	令和4年6月20日(月)16:00～16:30
場所	オンライン会議（Z o o m）
出席者	南信州観光公社：竹前様、山本様 飯田市産業経済部 商業観光課：今村様 地域ブランディング研究所：吉田、小島、青木、市川
主な議題	1. 当事業の位置づけについて 2. 当事業における全体コンセプトとターゲットについて 3. 伴走支援を行う地域資源について 4. 地域資源を活用した商品イメージについて 5. 伴走支援における実施事項について

<上伊那>

日時	令和4年6月28日(火)13:30～14:30
場所	オンライン会議（Z o o m）
出席者	長野伊那谷観光局：江橋様、殿内様

	北陸信越運輸局：廣井 長野県観光機構：三井様、石川様 日本旅行：牧内、秋山 地域ブランディング研究所：吉田、小島、青木、佐藤
主な議題	同上

<木曽>

日時	令和4年6月29日(水)10:30～11:30
場所	オンライン会議（Z o o m）
出席者	木曽観光連盟：田沢様 木曽おんたけ観光局：小嶋様 南木曽町観光協会：大日方様 北陸信越運輸局：近藤、廣井、山田 長野県観光機構：三井様、石川様、金子様 日本旅行：牧内、秋山 地域ブランディング研究所：吉田、小島、青木、佐藤、Julie
主な議題	同上

●第3回

第3回は3エリアの関係者が一堂に会した。各エリアの造成コンテンツの検討状況や販売時のプロモーションとして活用する制作物の指針説明、今後開催するガイド研修の内容等を共有し、議論を行った。

日時	令和4年7月29日(金)10:00～11:00
場所	木曽観光連盟会議室＋オンライン会議（Z o o m）【ハイブリッド開催】
出席者	木曽観光連盟：田沢様 木曽おんたけ観光局：丸山様 上松町観光協会：松原様 南木曽町観光協会：大日方様 木祖村役場：高柳様 南信州観光公社：竹前様 飯田市産業経済部 商業観光課：今村様 長野県観光誘客課 国際観光推進室：柿崎様 北陸信越運輸局：近藤、廣井、山田、西脇 長野県観光機構：金子様、三井様、石川様、ガーディア様 日本旅行：牧内、秋山、久下 地域ブランディング研究所：吉田、小島、佐藤
主な議題	1. 年間スケジュールと事業進捗について 2. 制作物について 3. 造成コンテンツについて 4. ガイド研修について

●第4回

第4回は南信州エリアが同一日程では都合がつかなかったため、2回に分けて開催をした。事業を進めていく中で、合意形成が十分ではなかった部分が散見されたため、改めて、本事業の実施方針の再整理ならびに目指すゴールを示したうえで、議論を行った。

また、造成するコンテンツ案については、第2回ガイド研修の講師としてもご協力を頂いたアレクサンダー氏（インバウンド領域の専門家）のアドバイスも加味したうえで、今後磨き上げを行っていくことで合意した。

<上伊那><木曽>

日時	令和4年9月13日(火)9:30~11:00
場所	木曽町文化交流センター小会議室+オンライン会議（Z o o m） 【ハイブリッド開催】
出席者	木曽観光連盟：田沢様 木曽おんたけ観光局：丸山様 上松町観光協会：松原様 南木曽町観光協会：大日方様 木祖村役場：高柳様 中部森林管理局 木曽森林管理署：遠山様 長野伊那谷観光局：江橋様 長野県：辰野様 北陸信越運輸局：近藤、廣井、山田、西脇 長野県観光機構：金子様、三井様、石川様 日本旅行：牧内、秋山、久下 地域ブランディング研究所：吉田、高路地、小島、佐藤
主な議題	1. 事業の実施方針の再整理ならびに目指すゴールについて 2. コンテンツ素案について

<南信州>

日時	令和4年9月16日(金)17:00~17:30
場所	オンライン会議（Z o o m）
出席者	南信州観光公社：竹前様、山本様 飯田市産業経済部 商業観光課：今村様 北陸信越運輸局：山田、西脇 長野県観光機構：金子様 日本旅行：秋山 地域ブランディング研究所：吉田、高路地、佐藤
主な議題	同上

●第5回

第5回は3エリアの関係者が一堂に会した。実施したモニターツアーの振り返りを中心に行い、それらを踏まえて改めて事業の目指すゴールの確認や議論を行った。事業期間内のスケジュールやタスクの確認も行った。

日時	令和4年11月28日(火)9:30～11:00
場所	木曽町文化交流センター小会議室＋オンライン会議（Z o o m） 【ハイブリッド開催】
出席者	木曽観光連盟：田沢様 木曽おんたけ観光局：丸山様 上松町観光協会：松原様 南木曽町観光協会：大日方様 木祖村観光協会：圃中様 中部森林管理局 木曽森林管理署：遠山様 長野伊那谷観光局：江橋様 南信州観光公社：竹前様、岡本様、山本様 飯田市産業経済部 商業観光課：今村様 北陸信越運輸局：近藤、山田、西脇、鈴木 長野県観光機構：金子様、三井様、石川様 日本旅行：牧内、久下、秋山 地域ブランディング研究所：吉田、高路地、小島、佐藤
主な議題	1. モニターツアー振り返り(要点) 2. 事業の実施方針の再整理ならびに目指すゴール【更新】 3. 今後のスケジュール 等

●第6回

最終回である第6回は事業全体の振り返り・成果報告会という位置づけも加味し、事業にご協力を頂いた伝統工芸事業者の皆様、ガイドの皆様にもご出席を頂いた。商品造成までの経緯を振り返りながら、最終商品内容の共有を行った。また、出席者の皆様には事前に事業振り返りのアンケートにご協力を頂いており、頂戴した観点を加味しながら、今後の展開への課題を共有、議論を行った。

日時	令和5年2月13日(月)15:00～16:30
場所	信州INAセミナーハウス+オンライン会議 (Zoom) 【ハイブリッド開催】
出席者	木曽観光連盟：田沢様 木曽おんたけ観光局：丸山様 上松町観光協会：松原様 南木曽町観光協会：大日方様 木祖村役場：高柳様 木祖村観光協会：圃中様 中部森林管理局 木曽森林管理署：遠山様 長野伊那谷観光局：江橋様、殿内様 南信州観光公社：竹前様、山本様 飯田市産業経済部 商業観光課：今村様 久保田織染工業：久保田様 ひさかた和紙の会：大橋様 関島水引店：関島様 ガイド協力者：古田様、佐藤様、ニック様、マイケル様 北陸信越運輸局：近藤、山田、西脇、鈴木 長野県観光機構：金子様、三井様、石川様 日本旅行：小林、秋山 地域ブランディング研究所：吉田、高路地、青木、佐藤
主な議題	1. 事業の振り返り 2. 今後の展開への課題 3. 総括

3. 受入環境の調査

対象地域におけるインバウンドに対する受入環境(伝統工芸、農村滞在等)の実態調査及びインバウンド向けの観光コンテンツや宿泊施設(旅館、農家民泊、古民家ゲストハウス等)が継続的に受入可能か等の調査を実施した。

調査結果は、「宿泊施設」「施設環境」「移動環境」「人材環境」として整理をした。各結果の調査項目は以下のとおりである。

●宿泊施設

○施設概要／意向

- ・始めたきっかけ、オーナーの思い、宿のコンセプト等
- ・宿泊者の傾向、コロナでの変化
- ・その他（展望や当事業に対する期待/懸念点 等）

○コンテンツ連携

・【認知/検討】

- 館内装飾に伝統工芸を使用、または置いているか
- 館内に伝統工芸を説明する人材がいるか

・【案内/手配】

- 体験コンテンツを販売しているか
- 販売はしていないが、連絡をとり送客しているか
- 地域情報・体験情報の紹介のみか

○訪日外国人旅行者受入体制

- ・【言語】 英語・その他言語での説明資料があるか
- ・【食事】 アレルギー・食文化に対する対応があるか
- ・【通信】 通信環境が整っているか
- ・【衛生】 お手洗いは洋式か
- ・【請求】 クレジット対応はできているか
- ・【予約】 ウェブでの予約が可能か

○アクセス

- ・二次交通到達
- ・最寄り駅
- ・交通機関の状況

●施設環境

○施設概要／意向

- ・コンセプト/ターゲット
- ・稼働状況(コロナ以前・現在)
- ・訪日外国人旅行者の受入実績有無
 - ―無:意向/意識確認
 - ―有:販売/流通手法(A G T / W E B 等)及び反応
- ・今後の展望/戦略
- ・その他(当事業に対する期待/懸念点 等)

○コンテンツ連携

- ・【認知/検討】
 - ―館内装飾に伝統工芸を使用、または置いているか
 - ―館内に伝統工芸を説明する人材がいるか
 - ―英語対応ができるスタッフがいるか
- ・【案内/手配】
 - ―参考情報/地域情報として案内しているか
 - ―体験コンテンツへの送客できるルート(連絡先)があるか

○訪日外国人旅行者受入体制

- ・【言語】 英語・その他言語での説明資料があるか
- ・【通信】 通信環境が整っているか
- ・【衛生】 お手洗いは洋式か
- ・【請求】 クレジット対応はできているか

○アクセス

- ・二次交通到達
- ・最寄り駅
- ・交通機関の状況

●移動環境

- ・会社名
- ・H P
- ・【即応性】 予約なしで利用ができるか
- ・【利便性】 言語対応はできているか

●人材環境

○心構え/コミュニケーション

―積極的に案内/活用したいか(聞かれれば受け答えする程度か)

○言語レベル

―言語レベルはどの程度か

○過去経験

―ガイド経験(有料/無料)があるか

―どのようなツアーのガイドングか

上記の調査項目を用いて、対象事業者等にヒアリング調査を行った。調査結果を集約したものは別添資料ご参照。

4. ガイド人材の育成

対象地域の観光関係事業者、ガイド人材等を対象に、各コンテンツの魅力と素材の価値を英語で訪日外国人旅行者に伝え、滞在に結びつかせる観点を養うことを目的に、2回のガイド研修を実施した。実施概要は以下のとおりである。

●第1回ガイド研修

ガイド候補者だけではなく、地域の事業者等にもご参加いただくことで、関係者間での本事業の趣旨の共通認識化を図ることも目指して実施した。

日時	令和4年8月10日(水)13:30～16:30
場所	木曽町文化交流センター大会議室+オンライン会議（Z o o m） 【ハイブリッド開催】
出席者	15名
主な目的	・本事業で造成する商品像及びそのために必要なガイド像が共通認識になっている。 ・ガイドだけでなく、地域事業者にも参加していただき高付加価値プログラムのあり方について理解して対応できるようになっている。
主な内容	○第1部 セミナー 「伝統工芸の高付加価値プログラムの在り方」 ・サステナブルツーリズムトレンド ・欧米豪の知的好奇心の高い層に評価されるプログラムとは？ ・各種演出等で必要なポイント ○第2部 エリア別ディスカッション 「満足度を上げるための演出案」 今回造成するコンテンツ案をもとに、 ・伝えた方がいい内容の確認 ・どのような演出をするとよいか ・サステナブル要素をどう入れ込むか

<当日のプログラム>

伝統工芸およびその技術を継承する方々の魅力を最大限に伝えられるガイドを目指します！！

★第1部では高付加価値プログラムの在り方として、ターゲットに刺さるポイントを説明。

★第2部ではどのような演出方法にするとよいかエリア別ディスカッションを実施。

～欧米豪の知的好奇心の高い層に刺さるものとは？～
**伝統工芸の高付加価値プログラムの
 演出を学ぶ 第1回ガイド研修**

開催日

2022年8月10日(水)

オンライン
同時開催

参加
無料

時間

13:30 - 16:30

場所/木曽町文化交流センター2F大会議室
 (長野県木曽郡木曽町福島5129番地)

タイムスケジュール

13:15 受付

13:30 開会・ご挨拶

13:40 第1部 セミナー

「伝統工芸の高付加価値プログラムの在り方」

- ・サステナブルツーリズムトレンド
- ・欧米豪の知的好奇心の高い層に評価されるプログラムとは？
- ・各種演出等に必要なポイント

休憩 (10分)

14:50 第2部 エリア別ディスカッション

「満足度を上げるための演出案」

- ・今回作成するコンテンツ案をもとに、
- ・伝えた方がいい内容の確認
- ・どのような演出をするとよいか
- ・サステナブル要素をどう入れ込むか

※オンライン参加者は、オブザーバーとして参加予定

16:20 閉会の挨拶 アンケート記入

講師

吉田 博詞氏



<プロフィール>

株式会社地域ブランディング研究所
 代表取締役。
 広島県出身、筑波大学卒。(一社)
 日本インバウンド連合会幹事長。イン
 バウンド向けの着地型コンテンツ
 造成及び販売の第一人者として全国
 で活躍。

講師

Baud Julie氏



<プロフィール>

フランス出身、ボルドー大学×京都
 大学卒業(観光学専攻)。地域ブラン
 ディング研究所に入社後はフランス
 人目線から各地でインバウンド観光
 のアドバイスをを行う。サステナ
 ビリティの専門家としてセミナー等
 登壇多数。

※ガイド研修は全2回を予定しております。

第1回では、ターゲットに刺さる内容や演出方法を中心に学びます。第2回では木曽・南信州・上伊那のエリア別に実施し、実際にプログラムの流れに沿って案内する練習をしていきます。(8月下旬開催予定)

セミナー
参加
お申込

右記のQRコード、または下記URLお申込フォームよりご登録ください。

<https://forms.gle/kbnaMYdBeVV3Vfk9>

後日、お申込いただいたメールアドレスに当日のご案内をお送りします。
 オンライン参加希望の方には、ZOOMのURLをお送りします。

【お申込締切】2022年8月3日(水) 17:00



本研修は『サステナブルな観光コンテンツ強化事業「姫街道(中山道)」の手仕事を紐解きアドベンチャーツーリズムの本質に迫る旅の創出事業』の事業の一環で実施いたします。

<主催>国土交通省北陸信越運輸局 観光部 観光地域振興課/一般社団法人長野県観光機構

<運営>株式会社日本旅行/株式会社地域ブランディング研究所

<お問合せ>地域ブランディング研究所(小島・佐藤・左近) 03-5246-4248(平日9:00~17:00) chiiki_solution@chibra.co.jp

<当日の様子>



<参加者からのご意見・一部要点抜粋>

<第1部セミナー>

- ・サステナブルツーリズムの考え方への理解が深まった。地域の持続性、地域の伝統工芸の発展につながる観光を目指すことに共感できた。外国人の視点からの地域の魅力・課題がたいへん新鮮だった。
- ・伝統工芸が、継承され育ててきた風土、地元民の気質、願いを理解してもらおうというコンセプトが心に響いています。
- ・安価で多くより、価値に見合った値段設定、また理解いただける方に特別な体験ということで、これからの観光宣伝について今一度考えていく必要があると感じました。
- ・地方の誇れる部分の発掘をするための考え方を整理することができました。ただ、日常の当たり前のことを、ストーリーをつけて説明するということなど良い発想なのですが、難しいと感じています。
- ・私も海外に行った時に、有名な観光地より、ごく普通の生活空間の中にあるもの、文化、会話、気づきなどがとても良いと思っています。しかしながら、そのようなものをアピールするのも現状では難しいのかなと感じています。
- ・関係者間で伝統工芸と観光におけるサステナビリティの必要性・重要性を共有できたのではないかな。
- ・セミナーを通じて業界トレンド・セグメントの概要を確認でき、地域の抱える課題との照らし合わせ、課題を踏まえた方向性の明確化ができた。
- ・値付けはやはり大切で、その設定によって自尊心も生まれる。

<第2部ワークショップ>

- ・地元以外の方からの意見や、実際関わっている職人さん、ガイドさんからの意見がとても参考になりました。また、3地域で抱えている問題もわかり、勉強になりました。
- ・相手の言っていることを理解するのは難しいし、また自分が適切な質問をしているのかわかると判断するのは難しい場でした。しかしながら、聞いた事をまとめたときの、匠の笑顔を思い出します。どうにかして、このような現場に残る技術文化をきちんと紹介して、世間に認知してもらい、持続可能な文化継承につなげられるのかなあと改めて感じさせられました。
- ・実際に職人さんから、伝統工芸の魅力や特徴、現状の課題まで聞くことができた貴重な機会となった。

●第2回ガイド研修

専門家も交えたうえで、関係者が一堂に会し、コンテンツ対象となる現場にお伺いした。各コンテンツの背景から深く理解し、実際に体験・体感、双方向の意見交換を行うことで、ガイドを行ううえでのポイントを明確にした。

日時	令和4年8月31日(水)08:30～9月1日(木)12:30
場所	上伊那/木曽/南信州のコンテンツ対象となる各現場
出席者	33名(二日間両日またはいずれかに参加・事務局含む)
主な目的	・3地域内で選定された地域資源/コンテンツの“現場”にお伺いし、「ガイドを行ううえでのポイント」を専門家も交えて深掘りを行う。 ・本会にて得られた成果はコンテンツの磨き上げ、ガイド力向上、その後のモニターツアー実施等へ繋げる。 ・地域事業者の皆様によるご協力のもと、ガイド候補者、連携主体関係者、専門家、事業主体者・事務局等が集い、多様な目線・経験を活かして、地域資源/コンテンツの価値を再認識・再発見・再定義する。
主な内容	・基本構成は、①背景理解に繋がる説明、②体験・体感、③意見交換。

<スケジュール概要>

2022年8月31日(水)08時30分～9月1日(木)12時30分		
8/31(水)	08:30-10:30	【南信州】「ひさかた和紙」、「関島水引」
	13:20-15:00	【木曽】「赤沢休養林」
	16:15-18:00	【木曽】「お六櫛：木祖村郷土館等」
9/1(木)	09:00-10:30	【上伊那】「駒ヶ根シルクミュージアム」
	11:00-12:30	【上伊那】「伊那紬：久保田染色工業」

<専門家プロフィール>



Local Colors コンテンツプロデューサー
アレクサンダー・スタンコフ 氏

<アドバイス内容>
インバウンドコンテンツプロデューサー
観光まちづくりアドバイザー

<プロフィール>

ブルガリア出身。東京大学大学院卒。在日12年以上。通訳案内士資格獲得者。インバウンド実務主任者。日英を含む、4か国語が堪能。体験予約OTA「Voyagin」（現「Rakuten Travel Experiences」）の元コンテンツ・プロデューサー。観光庁の「世界水準のDMO形成促進事業」における外部専門人材。東京都観光まちづくりアドバイザー。47都道府県全てに足を運び、日本全国の魅力を知り尽くしている。地方行政や中央省庁のアドバイザー業務に従事し、日本の知られざる魅力を世界に発信中。

<専門家総評・要点抜粋>

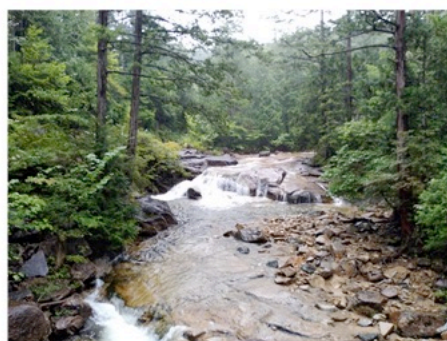
- 全体的に、コンテンツが興味深く、事業者も積極的です。商品完成への道のりがそれほど遠くなく、焦点を当て直したり、流れを円滑にしたりすることで、地元が誇れる観光コンテンツになると思います。一方、アクセスや認知度の壁があり、インバウンドへの販売には課題が残ります。
- 各所のストーリーテリングや解説を担うガイドにしっかり準備をしてもらいたいです。特に外国人ガイドを使うのは非常に良い工夫ポイントですが、予備知識をしっかりと蓄積してもらいたいです。
- 今回造成した体験のためにわざわざ来るインバウンド客を想定するのはよいですが、それぞれのエリアを旅する客層のニーズも考慮すべきです。たとえば、木曽の場合は中山道がメインテーマですので、中山道を歩くインバウンド客にどのように当事業のコンテンツを提供できるかと考えるのが一般的な考え方です。
- 駒ヶ根の千畳敷カール、飯田の天竜川くだり、阿智村の星空など、自然の資源がメインテーマとしてあるので、新規コンテンツはその背景に位置づけをすることが重要です。
- 共通するコンセプトとして感じたのは、現代の日本人に忘れられた伝統（決して、忘れてはならないもの）ということです。下久堅の和紙生産、赤沢休養林の木こり産業、お六櫛の生産、伊那の蚕業はすべて現代の日本人に忘れられた伝統で、残り少ない職人さんが必死に保存し続けています。そのような観点から打ち出せば、コンテンツがより興味深くなり、旅行者の感動に直接響くでしょう。

<当日の様子>

①下久堅の和紙・水引体験(飯田市)



赤沢自然休養林



お六櫛体験



蚕業と伊那紬



5. モニターツアー及びファムトリップの実施

作成したコンテンツの課題抽出、磨き上げ、旅行商品造成を行うため、対象市場出身の旅行会社等を招請しモニターツアー及びファムトリップを実施した。実施概要は以下のとおりである。

●モニターツアー

本ツアーの位置付けは、最終検証の場であるファムトリップの実施に向けて、

- ・「モニター」【エンドユーザー目線・マーケット目線】
- ・「事業者様」【コンテンツ提供当事者目線】
- ・「連携主体関係者様」【伴走支援者目線・販売者目線】
- ・「ガイド」【コーディネーター目線】

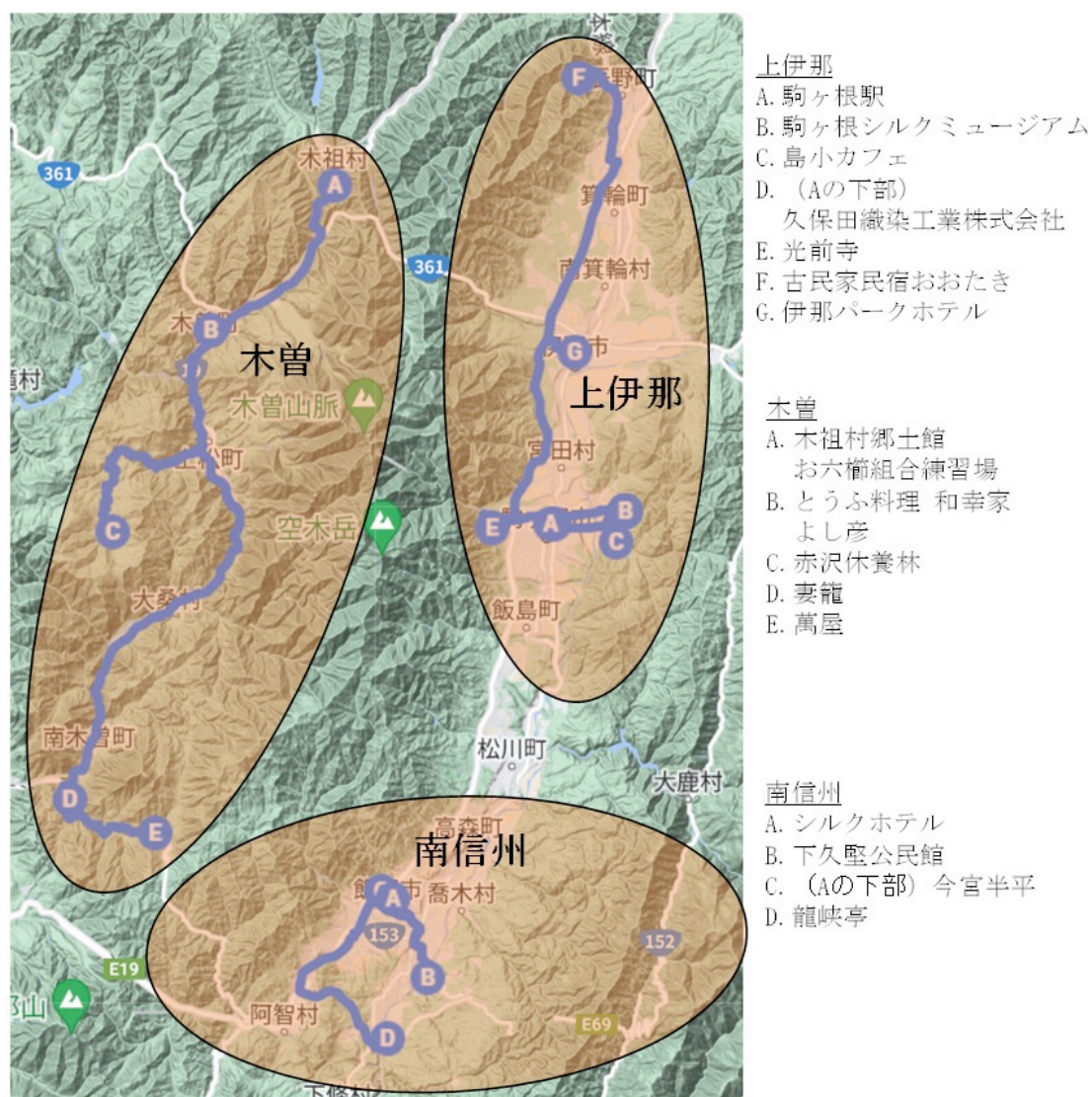
の皆様の意見を頂戴し、コンテンツの課題抽出、磨き上げを行うべく実施をした。

なお、本モニターツアー工程を活用して、「動画制作」（今後も継続対応）ならびに「体験記事作成」（のための事前取材）も並行して行った。

日時	令和4年10月24日(月)～10月26日(水)
場所	上伊那/木曽/南信州のコンテンツ対象となる各現場
モニター	○Aline Schneider(アリーヌ・シュナイダー) 氏 フランス国籍・Ayabex 社のトラベルプランナー ○Norma Delgado (ノーマ・デルガド) メキシコ国籍・Arigato Japan 社でガイド及びコンテンツ造成などを担当
主な目的	検証ポイントは以下のとおり。 【「サステナブル」の前提の担保】 ・対象市場の訪日外国人の求める、考える「サステナブル」（地域の自然、文化、生活・生業等を体感）となっているか。 ・上記が担保されたとして、事業者様をはじめ地域の関係者の皆様が無理なく対応できるか。得られた課題や磨き上げポイントに適用できるか。 【「滞在コンテンツ」としての完成度・魅力】 ・各地域の伝統工芸の体験化・事業者の皆様との対話・交流を「メインコンテンツ」とし、宿泊、各種周遊(食事、立ち寄り等)、域内移動等を組み合わせた滞在コンテンツとしての完成度をどのようにして高められるか。 【「ガイド」の介在価値・実効性・クオリティの担保】 ・ガイドの役割を「①コーディネート」（工程やプログラムの管理）、「②通訳」（参加者-事業者、参加者-専門ガイド）、「③ファシリテーション」（関係する皆さんとの柔和なコミュニケーションの橋渡し）の3つに大別。 ・各ガイドの皆様の得意領域を活かすため、「チームアプローチ」（複数のガイド、現地の専門ガイドとの連携）による実施。 ・クオリティ担保のよりどころとなる、メインコンテンツ部分の「ガイドス

	クリプト」への専門ガイドの方からの監修(本格実施はこれから)。 【「商品」としての収益性】 ・メインコンテンツの価格設定は、「最低定員2人で20,000円(10,000円/人)は1回の売上になるようなもの」を最低限意識したい目線とした時に、それらに伴う内容となっているか。ユーザーからの評価はどうか。さらに価格設定を高められる要素はどのあたりにあるか。 ・メインコンテンツの体験や域内移動、ガイドの介在性等を勘案した場合、2人よりも、3人のお客様をアテンドすることで、収益性が向上することが見込まれるが、オペレーションとして無理がないか。クオリティが担保できるか。さらに人数を増やすことも検討できるか。
--	--

<訪問ルートマップ>



出典:Google マップより作成

<スケジュール概要>

【1日目】

10月24日(月) 上伊那			
時刻	内容	場所	時間
08:30	集合①	「駒ヶ根駅集合」※前泊ホテルにも迎え	
08:35	出発	◆モニター・ガイド候補者・事務局等	
08:35-8:55	移動		20分
08:55	到着	「駒ヶ根シルクミュージアム」	
09:00-09:55	体験	・【伊那紬】着付け体験 ◆モニターのみ	(55分)
09:55	集合②		
10:00-11:15	見学	・館内見学	75分
11:15-11:30	移動		15分
11:30-12:40	昼食	「島小カフェ」◆該当者以外は「集合③」	70分
12:40-12:55	移動		15分
12:55	集合③	「久保田織染工業株式会社」	90分
13:00-14:00	見学	・【伊那紬】製作工程	
14:00-14:15	体験	・機織り体験	
14:15-14:30	交流	・@畳の部屋にて 久保田織染工業の皆様と	
14:30-14:45	移動		15分
14:45-15:15	散策	「光前寺」着物散策	30分
15:15-15:45	移動		30分
15:45-16:05	(待機)	「駒ヶ根シルクミュージアム」着物返却	20分
16:05-17:05	移動		60分
17:05-17:35	見学	「古民家民宿おおたき」(宿泊施設)見学	30分
		【元養蚕農家】	
17:35-19:05	夕食	夕食:自家製野菜【意見交換会】	90分
19:05-19:45	移動		40分
19:45-	宿泊	「伊那パークホテル」	

【2日目】

10月25日(火) 木曽			
時刻	内容	場所	所要時間
07:40 07:45	集合① 出発	「伊那パークホテル」ロビー集合 ※モニター・制作・事務局等	
07:45-08:20	移動		35分
08:20-08:40	見学	「Byaku Narai」(宿泊施設)見学【外観のみ】	20分
08:40-08:55	移動		15分
07:40 07:45	集合② 出発	「伊那パークホテル」ロビー集合 ※ガイド・事務局等	
07:45-08:25	移動		40分
08:25 08:30-08:55	集合③ 事前	「木祖村郷土館」 事前打ち合わせ ※ガイド・事務局等	25分
08:55 09:00-09:45	集合④ 見学	「木祖村郷土館」 ・館内見学	45分
09:45-11:00	体験 交流	「お六櫛組合練習場」 ・お六櫛手挽き等体験 ・お茶	75分
11:00-11:20	移動		20分
11:20-12:30	昼食	「とうふ料理 和幸家」	70分
12:30-12:40	移動	(徒歩)	10分
12:40-13:10	見学	「有限会社よし彦」 【江戸時代より続く唯一の漆器】	30分
13:10-14:05	移動		55分
14:05 14:10-16:10	集合 散策	「赤沢自然休養林」 ・木曽エリアを支えた林業の歴史 ・良質な木が育つ理由説明	120分
16:10-17:20	移動		70分
17:20-18:00	見学	「妻籠」(宿泊施設)見学【外観のみ】	40分
18:00-18:20	移動		20分
18:20-19:50	夕食	「萬屋」【意見交換会】	90分
19:50-20:40	移動		50分
20:40	宿泊	「シルクホテル アネックス」@飯田	

【3日目】

10月26日（水） 南信州			
時刻	内容	場所	所要時間
08:25 08:30	集合① 出発	「シルクホテル アネックス」ロビー集合	
08:30-08:55	移動		25 分
08:55 09:00-12:00	集合② 体験 見学 交流	「飯田市 下久堅公民館」【ひさかた和紙】 ・楮を切る体験 ・和紙すき体験 ・和紙→元結→水引への歴史紹介 「関島水引」 ・プロの技を見学後、体験	180 分
12:00-12:30	移動		30 分
13:00-14:30	昼食	「今宮半平」【五平餅】 【意見交換会】	90 分
14:30-15:00	移動		30 分
15:00-15:30	見学	「龍峡亭」（宿泊施設）見学	30 分
15:30-16:00	移動		30 分
16:00	解散	飯田駅	

<モニター総評・要点抜粋>

<上伊那>

○「駒ヶ根シルクミュージアム」の見学

- ・魅力的な施設である。もっと自由に見る時間、お土産を見る時間も欲しい。
- ・案内の導線が少しゴタゴタしていたので、もう少し精査できるとよい。

○「伊那紬」のレンタル

- ・本物の着物がこの金額でレンタルできるのはとにかくお得(2,500円は安すぎる)。
- ・食事の時などに汚したらいけないなど、少し気を使った(ワンコイン保険等があると、安心)。
- ・外国人は体形的にも長時間着物を着ているとしんどいので時間は短い方がよい。

○「久保田織染工業」内の見学・体験

- ・試着している着物ができる工程を見ることができて理解が深まった。絹を生産しているこのエリアならではの貴重な体験であった。
- ・職人との交流の際にお茶をご準備いただいたが、当初はペットボトルだった(※人数が多い事情もあり、急遽、ご準備いただいた)。今後は急須でご準備いただくなどの方がよい。

<木曽>

○「木祖村郷土館」内の見学

- ・もっとこの資料館をゆっくり見て回る時間があればよかった。
- ・このエリアのことがよく分かるものであった。

○「お六櫛」の手挽き体験および職人との交流

- ・インパクトのある工房で大変面白い体験であった。
（手挽き体験は工具の関係で右利きの方のみができるが、左利きの方も少し体験させていただいた）
- ・職人さんの自己紹介等があればより良かった。

○「赤沢自然休養林」の散策

- ・鉄道も現地専門ガイドの方の人柄の良さもパーフェクトであった。
- ・現地専門ガイドのご準備されているスクリプトが、英語バージョンでもあればより良いと思った。

<南信州>

○「ひさかた和紙」の原材料見学・紙すき体験

- ・原材料見学からはじまり、すべての説明は本当に素晴らしかった。和紙作りの体験は何度かしたことがあるが、和紙がどのように使われているかは見たことがなかった。だから本当に楽しくて面白かった。

○関島水引

- ・和紙と水引がどのように関係して、そしてなぜ作られたのかについての説明は本当にありがたかったです。

<全体>

○3日目の交流が特にとても評判が良かった

- ・とてもよい交流ができました。
- ・話の流れを事前に職人さんとガイドとで綿密に詰めていたのがよかった。
（ガイドのマイケルさんも冗談を言ったりして、緊張気味な職人さんをうまくほぐして、とても良い橋渡しをしている印象）

○資料館の見学等、もっと時間が欲しいといった意見が多数

- ・日本人が見学するよりも更に時間に余裕を持った方がよさそう。

○日本の中でこういった位置づけのエリアなのかといった情報があればより良い

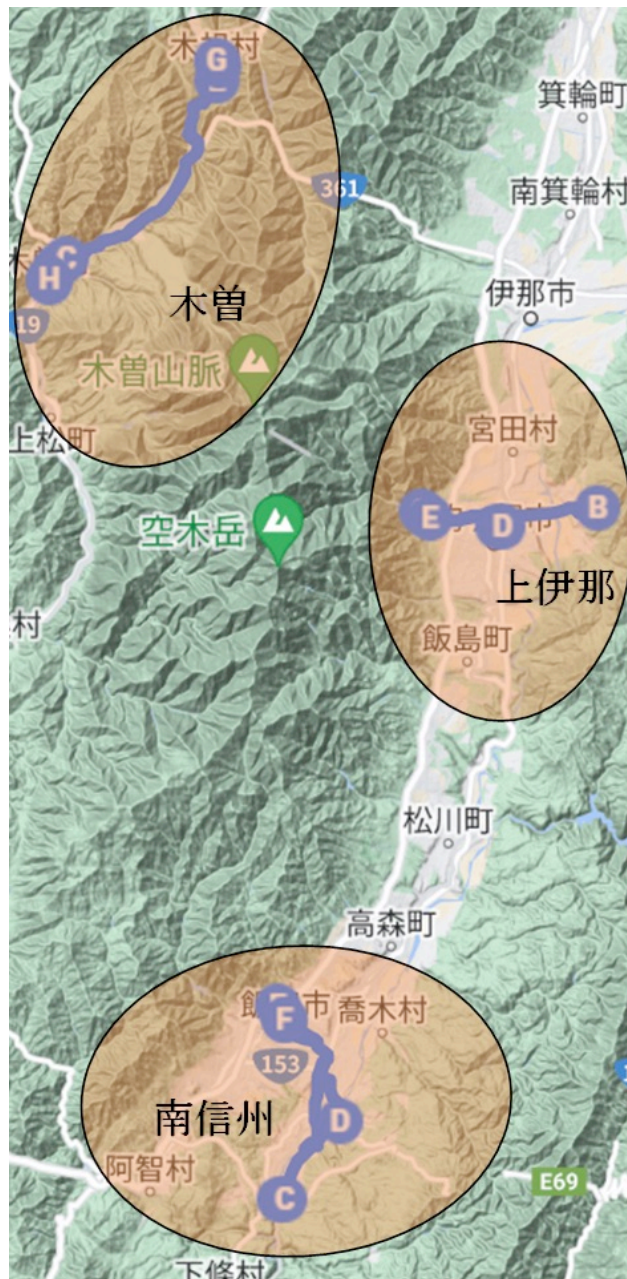
- ・こういった地形で、どこにいて、どのような背景があるのかといった簡単な説明が冒頭にあればなお良い。

●ファムトリップ

モニターツアー実施によって得られた課題を調整し、磨き上げを行ったコンテンツならびに滞在型プランについて、欧米豪市場をマーケットにしている旅行会社から評価を得て、最終的な磨き上げを行うために実施した。

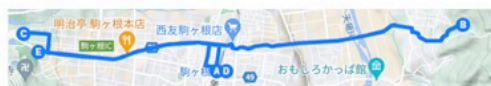
日時	令和5年1月23日(月)～1月28日(土)
場所	上伊那/木曽/南信州のコンテンツ対象となる各現場
旅行会社	<上伊那> ・True JAPAN tours 浅野明彦氏 ・KEIKAKU Terrier Sebastien 氏 <木曽> ・True JAPAN tours 塚川剛氏 ・HIS 宮永麻里絵氏 ・日本旅行 ジョバンニ・パンテリ氏 <南信州> ・True JAPAN tours 白岩雪子氏 ・BCT-Tourlistk 久保田智子氏 ・ナノボ エリサベス・ヨピス氏
主な目的	最終商品化に向けてマーケット目線からの評価を得る。

<訪問ルートマップ>



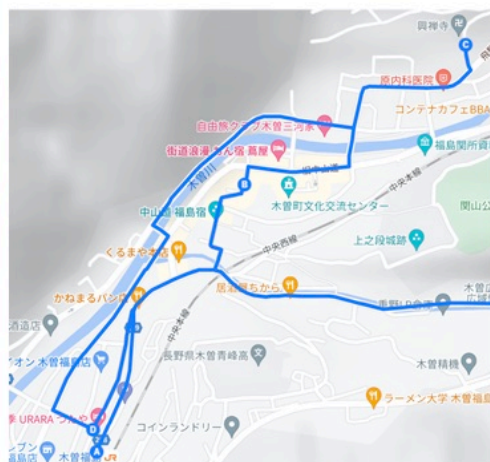
上伊那

- A. 駒ヶ根駅
- B. 駒ヶ根シルクミュージアム
- C. 西山荘
- D. 久保田織染工業株式会社
- E. 東右衛門
- A. 駒ヶ根駅



木曽

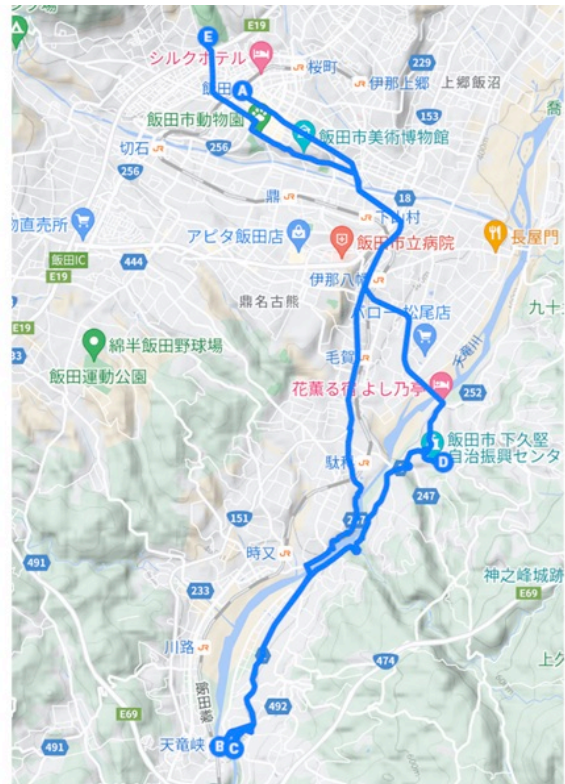
- A. 木曽福島駅
- B. シェコイワイ
- C. 御料館
- D. 山みず季 URARA つたや
- E. 藪原駅
- F. 木祖村郷土館
- G. おぎのや
- H. お六櫓工房
- ・ 木祖村観光協会



出典:Google マップより作成

南信州

- A. 飯田駅
- B. テンリュウ堂
- C. 龍峡亭
- D. 下久堅公民館
- E. 今宮半平
- A. 飯田駅



出典:Google マップより作成

<スケジュール概要>

【上伊那】

◆ 1 日目 (1/23)		
集合場所 駒ヶ根駅	10 分	13:35 駒ヶ根駅集合 ※岡谷駅から駒ヶ根駅 13:33 着の電車あり ・オープニング（ガイドの自己紹介等）の想定
=車移動=	15 分	
コンテンツ① 駒ヶ根シルク ユー ジウム 伊那紬 【試着】	60 分	14:00-15:00 着付け 2 名 ・本物のシルクの良さを体験
コンテンツ② 駒ヶ根シルク ミュ ージウム 【見学】	75 分	15:00-16:15 ・シルクの歴史を学ぶ
着替え	30 分	16:15-16:45
=車移動=	30 分	
宿泊場所		17:15- 西山荘 - 夕食は信州駒ヶ根ならではの地元の郷土料理 - ※タクシーはこの宿に送迎まで
◆ 2 日目 (1/24)		
宿集合		9:30 西山荘-ロビー集合
=車移動=	20 分	
コンテンツ③ 久保田織染工業 【見学・体験】	60 分	10:00-11:00 ・糸からの製造過程の見学および、機織り体験
コンテンツ④ 職人とのふれあい・ 販売 【お茶タイム】	60 分	11:00-12:00 ・伊那紬の紹介および小物等を見ながら触れ合い ・お抹茶をご用意頂く
=車移動=	30 分	
昼食	90 分	12:30-14:00 東右衛門 15 名で予約 ※14 時に退出
=車移動=	30 分	14:00-14:30
解散場所		14:30 駒ヶ根駅解散

【木曽】

◆ 1 日目 (1/25)		
集合場所 木曽福島駅	15 分	11:00 木曽福島駅集合 ・コンセプトや全体行程、ガイドの自己紹介等
=徒歩移動=	15 分	
昼食	90 分	11:30-13:00 シェ・コイワイにてフレンチ (木曽福島MAP等お渡し)
コンテンツ① =徒歩移動= 木曽福島駅散策	45 分	13:00-13:45 ・道中の山村代官屋敷も紹介 (木のストーリーに関する場所の為)
コンテンツ② 【見学】	45 分	13:45-14:30 ・御料館にて木曽全体の概要説明【赤沢休養林・南木曽等】 現地ガイドの伊藤さんご同席
=徒歩移動=	30 分	14:30-15:00
宿泊場所 (夕食・朝食含む)		15:00 - ・山みず季 URARA つたやチェックイン 18:00-夕食までは、自由行動
◆ 2 日目 (1/26)		
宿集合		8:30 集合
=電車移動=	16 分	8:56 木曽福島発-9:11 藪原駅着
=徒歩移動=	10 分	
コンテンツ③ 木祖村郷土館 【見学】	75 分	9:30-10:45 お六櫓の歴史等の紹介
=徒歩移動=	15 分	
昼食	90 分	11:00-12:30 藪原宿の「おぎのや」にてそばのランチ
=徒歩移動=	15 分	
コンテンツ④ お六櫓制作 【見学・体験】	30 分	12:45-13:15 職人さんの実演を見学およびプチ体験 お六櫓工房
コンテンツ⑤ 職人との交流・販売 【お茶タイム】	45 分	13:15-14:00 職人さんと語り合い
=徒歩移動=	10 分	
=電車移動=	16 分	14:27 藪原駅発 - 14:43 木曽福島着
解散場所 木曽福島駅	-	15:30 解散

【南信州】

◆ 1 日目 (1/27)		
集合場所 飯田駅	15 分	14:00 に飯田駅集合 ・ ジャンボタクシーで移動
=車移動=	30 分	
コンテンツ① 【お茶タイム】	60 分	14:30-15:30 ・ 龍峡亭（宿泊先）に荷物を預ける（ジャンボタクシーはこ こで終わり） ・ 姑射橋から天竜川の景観を楽しむ ・ テンリュウ堂のカフェ（コーヒーor 紅茶とアップルパイ） -お茶を飲みながらオープニング（コンセプトや全体行程、ガ イドの自己紹介等）の想定。お茶を飲みながら、じっくり コンセプトを説明
コンテンツ② 天龍峡【散策】	60 分	15:30-16:30 つつじ橋までの散策 ※時間は当日の天候や状況により変更の可能性あり - エリア故に紙文化が発展したことの理解を深める-
宿		16:30 龍峡亭にチェックイン
夕食		18:00-
◆ 2 日目 (1/28)		
朝食		7:00-
集合		8:15 にロビー集合
=車移動=	15 分	
コンテンツ③ たくり体験・紙す き 【体験】	75 分	8:30-9:45 ハガキの作成、大きなサイズのもの（ひさかた和紙ならでは） 場所：下久堅 ふれあい交流館
コンテンツ④ 職人とのふれあ い・販売 【お茶タイム】	15 分	9:45-10:00 - 地域資源への理解を深める- ・ ひさかた和紙の会について ・ 和紙⇒元結⇒水引へと発展していった歴史を伝えて水引へ 繋げる
コンテンツ⑥ 飯田水引 【見学・体験】	75 分	10:00-11:15 職人技を見学した後に実際に体験
販売等まとめ	30 分	11:15-11:45 乾いた和紙の受け取り、水引の作品の販売
=車移動=	30 分	11:45-12:15
昼食	75 分	12:15-13:30 今宮半平で、五平餅ランチ
=車移動=	15 分	13:30-13:45
飯田駅		14:00 解散

<旅行会社総評・要点抜粋>

<上伊那>

○印象に残った点や魅力を感じた点

- ・伊那紬が他にない「手織」ということ、そして、手織の体験ができるという点。
—伊那紬の手織体験をもっとアピールする。体験織りをもう少しバリエーションを増やせないか。大きなサイズのものを作製できる選択肢等。
- ・宿泊先が旅館と言うより民宿に近く、アットホームであったこと。
—宿泊時は生憎の曇天で朝日が見られなかったが、展望がよいので喜ばれると思われる。
—こたつが配置され、外国人には珍しがられると思われる。
—品数から地元野菜によるベジタリアン対応は可能と思われる。
—郷土料理である鯉こくを外国人に出せるかどうか。

○改善すべきと感じた点

- ・ガイドでは、シルクミュージアムと久保田織染工業での説明が繋がるような連携が欲しい。
—草木染と環境への配慮など、SDGs・色遣いなどの流れを追加されてもよいのではないかな。
- ・伊那紬の試着については、予約制でないとサイズが揃わない(男性の場合)、試着希望者が多くなった場合の対応、着替え場所が狭く男女の着付を一緒に出来ない、などの課題があると思われる。

<木曽>

○印象に残った点や魅力を感じた点

- ・県民である私でも気が付かなかった木曽谷の魅力を伝統文化、歴史風土、食事や温泉など幅広く外国人旅行者に伝わるように工夫されていたと思います。
- ・妻籠・馬籠は知っていたが、木曽福島・藪原は初めて訪れ、新たなコンテンツを知ることができた。
- ・天候によってできることできないことがあるので、比較的時期を選ばずできる、お六櫓の体験は、もう少ししっかり体験してみたかったです。職人のお話を聞いて、実際に技術を見られるコンテンツは訪日外国人にも需要はあると思います。
- ・欧米系や富裕層など比較的金も時間もある層は、日本製・ホンモノ、希少価値のあるものなどに触れたいはずなので、実際に歩いて見て味わえるコンテンツが揃っていて、お六櫓や特産品を使ったフランス料理、酒蔵など、地元の産業がたくさんあるので、もっとうまくPRできれば、新たなコンテンツとして盛り上がるのではないかと思います。
- ・地元の林業の歴史とそこからつながる食文化、産業、それが今も続いているというストーリーをしっかりと説明し、実際に体験していただくのが良いと思います。
—昨今のSDGsと絡めたPRも良いのではないのでしょうか。
- ・櫓をつくるための道具から手作りというのに驚きました。
—地元の人との交流は訪日旅行でも期待されることの一つなので、体験アクティビティ中に、職人として、大変なことや楽しいことなどエピソードをお話しいただけると

良いと思います。

- ・宿は駅前で立地抜群でした。

—やや小さめの宿で団体の受け入れはできないようですが、半露天風呂付のお部屋は、大浴場が苦手なお客様にもお風呂をお楽しみいただけるので、旅館の雰囲気を味わいたい方にお勧めできると思います。

—ボリュームもたっぷりで、地産地消のお食事が楽しめました。英語のメニューや説明書を準備しており、外国人の受け入れも問題なさそうです。

—囲炉裏の前でのお食事は雰囲気もあり良かったです。

○改善すべきと感じた点

- ・資料館、展示館の英語表示。

—展示全般に改善の余地あり。英語表示、人間国宝（坂城町の日本刀）や日本遺産（千曲市の姨捨棚田）の紹介不足、ビデオ等視聴覚コンテンツの不足など。外国人には興味が湧きそうにないように感じられる。ここを見学する時間を櫛工房での切削体験にまわした方が良いかもしれない。

—ここでは、歴史の細かい説明よりも、道具の使い方やお六櫛のストーリー、お六櫛ができるまでの木材の加工方法などをお話しして、体験アクティビティにつなげるのが良いと思います。

- ・お六櫛体験は、いきなり本番だとうまく切削できないと思う。木切れで先に練習して道具の使い方（切込み角度、切削回数）に少し慣れたほうが良い。

—木材にお六さんや櫛の烙印を入れたキーホルダー等のお土産品を思い出記念品として持ち帰るのも一案かもしれません。

—作ったものを持ち帰れる、お土産になるというのは旅の思い出として、大きなポイントだと思います。

—ガイドは職人さんの40年以上に渡る職歴をもっと紹介したほうが良い。皮革製品、楽器製造の欧米マイスターのように長年この仕事一筋でやってきた匠の伝承者に敬意を示し、顕彰したい。それが、後継者育成、伝統工芸の伝承につながると思います。

- ・ガイドについては、日本語由来の語源からくる屋号などの説明は日本語を知らない外国人には難しいかもしれませんが、理解できると面白いと思います。どれだけわかりやすく説明できるかがポイントだと思います。

—お六櫛の伝説について聞くことができ、面白いと思いました。落語や怪談噺のような日本独特の物語は、しっかり伝われば、訪日外国人にも受けるのではと思います。

- ・厳寒と残雪路上歩きであれ以上の長時間の外歩きはつらくなるので、要注意。

—当日の参加者の興味度、天候条件に鑑みて多少柔軟に対応してもよかったと思われます。

<南信州>

○印象に残った点や魅力を感じた点

- ・恥ずかしながら長野というと松本・長野などのイメージが強かったため、新しい長野の姿を見ることができました。

—個人的には、飯田と木曽との違いを伺って、地域による生活や文化の違いをご案内できるよう勉強せねばと思いました。

- ・まず、飲み物と地元の特産であるリンゴのアップルパイを古民家風のカフェでいただきながらのツアーの説明というのが導入としてとても良かったです。
—期待が高まったところで天龍峡へ。長いバスでの移動の後で歩くのは気持ちよかったです。そして、そのあとは温泉でゆっくりというのもよい。
- ・和紙作りも水引体験もとても楽しいものでした。食事をいただきながら職人さんとの交流もとても意味があったと思います。
—自作の和紙や水引を持っでの写真撮影も思い出に残ると思います。
- ・ガイドの説明がなかったら飯田の町の良さは分からなかったと思います。
—とても細やかな心遣いもできる方だと思いました。また、日本の文化や地域のことに
ついてよく勉強されていることに驚かされました。何より人柄が素晴らしく、間違い
なくどなたからも高い評価をもらえると思います。
- ・お会いした皆さんのお人柄がすばらしい。職人さんもととても楽しい方々でした。また来
たいと思わせてくださいました。
- ・天龍峡の雪景色を見られたのはラッキーでした。
—四季折々異なる景色を見せてくれることでしょうから春や秋にも足を運びたいと思
いました。
- ・ガイドが素晴らしかった。
—天龍峡の成り立ち、十勝の説明、龍角峯の説明、天龍川下りの船頭さんの話、雲海や
ポットホルの成り立ちなどなど、見どころをただ羅列するだけでなく、どうしてそ
うなったのかなど分かりやすく説明してくれました。
—和紙の作り方は勿論のこと、職人さんから歴史や地域の取り組みについても話して
くれるようにと水を向けられたので、ストーリーがとてもよく伝わりました。美濃か
ら和紙づくりを学んだこと、なぜ飯田の和紙が強いのかなど、うまく職人さんから話
を聞きだされており、とてもよく理解できました。
- ・普通は和紙作りというと舟の前での作業だけのことが多いのではないかと思います、
こうぞの皮を剥くところからさせてもらえたので和紙の原料のことがよくわかりまし
た。
—トロロアオイの根っこの粘液を触らせてもらえたりしたのは、とても貴重な体験で
した。和紙作りは初めてで、なかなか難しかったですが楽しかったです。自分がつく
った和紙を持って帰れるのは本当にうれしいものです。この体験は海外のゲストも
とても楽しまれると思います。
—紙漉きの体験ができる場所がありますが、そもそもその前の準備がどれだけ大変な
作業であるかを実際に自分で体験できるのが良かったです。持って帰るまでの乾燥
の時間に水引細工の体験という時間の使い方も良い方法だと思いました。
- ・水引は初めての体験でしたが夢中になりました。色の組み合わせを考えるのも楽しいで
すね。
—飯田が水引のシェア日本一とは知りませんでした。先生の指さばきは見事で熟練の
匠の指さばきに見とれてしまいました。日本の伝統文化の火が消えないように、いた
だいた材料で外国からのゲストにお土産として差し上げられるように練習したいと
思います。
—うまく結ぶまでに少し時間がかかるのですが、職人さんたちがそばにいて、いつでも

聞くことができ、素晴らしい体験だった。やれば、やるほどはまる！

一職人さんから学生たちにワークショップをした時の話をお聞きしましたが、高校の先生が「生徒たち全員がこんなに静かに夢中になって一つのことに取り組む姿を初めて見た」というお話にはうなずけました。また、時代の移り変わりの中で水引(結納など)の文化が廃れていくのは仕方ないのですが、生き残り、受け継がれていく道がなんとか開けるとよいなと思いました。職人さんの生の声を聞けたのはとても良かったです。今度から、お店でのし袋などを見たら関島ブラザーズを思い出します。

- ・夕飯は手の込んだ様々な種類のお料理が並びとても美味しかったです。「フグの白子豆腐」は初めていただきましたがとても美味しかったです(海外の方に何かと聞かれ白子を説明すると食べない方がいるとはおもいますが)。鯉のこぶ締めは川魚臭さが全くなく美味しかった。陶板焼きも三種のつけたれがあり楽しめました(これは外国の方は絶対好きです!)
- ・五平餅は地域の名物でたれの味も三種類ありそれぞれ美味しかった。信州サーモンのホイル焼きは野菜もサーモンも味噌味がしみて美味しかった。山芋の茶わん蒸しは初めてでしたが海苔とよく合って美味しかった(海外の方は好き嫌い分かれるところかも知れませんが)。モズクは美味しかったです、やはり海外の方の中には食べられない方がいるかもしれません。

○改善すべきと感じた点

- ・職人さんと一緒に食事するのがすごく良いのですが、特別なときしかできないかと思われますので、どの程度このままのコンテンツを提供できるか気になります。
一食事の時間はちょっと少ないと感じました。一人の職人さんしか話ができなかった。
- ・ランチのメニューは紙ではあったのですが、日本語でしたので、今後は海外向けの場合、英語に翻訳する必要があります。ガイドさんからの説明もあると良い。
一今回はペスカタリアン(魚を食べるベジタリアン)に対応してくださったのですが、今後のゲストの食制限でビーガンとベジタリアンのリクエストがある可能性がある。そちらの対応も考えた方が良いでしょう。
- ・コロナの影響やシーズンオフで難しいですが、川下りができればよかったと思います。上から川を見るのと下から見上げるのでは、かなり印象が違うのではないかと思います。
- ・温泉がとても気持ちよかったです。外に見える方の温泉が女湯として使えるのが夜遅めの時間と朝食の時間だったので、どちらか逆になったら良かったと思いました。
- ・欧米の方々は夜も楽しみたいという方が多いので何かあればよいと思います。飯田が人口の割に居酒屋が多いと聞きました。ローカルの居酒屋なども外国の方は行ってみたいのではないのでしょうか。

6. モデルツアーの造成及びタリフ作成

地域の皆様方との議論、ガイド研修、モニターツアー、ファムトリップ等を経て、造成したコンテンツを地域ごとにモデルツアーとして取りまとめた。これらのツアーは英語ウェブサイト等でコンテンツの情報発信及び販売ができるようにタリフとしても取りまとめを行った。概要は以下のとおりである。 ※タリフの英語版は別添資料ご参照

●コンテンツの概要

エリア	上伊那	木曽	南信州
活用した地域資源	伊那紬	お六櫛 赤沢自然休養林 ※冬はお六櫛のみ	ひさかた和紙 飯田水引
コンテンツのポイント	・良質で肌ざわりのよい伊那紬を着ることができる。 ・伊那紬がなぜ発展したのか、原料のシルクのストーリーを専属のガイドが案内する。 ・現在もひとつひとつ手織りしている伊那紬の職人と交流ができる。	・細かく丁寧な職人技を近くで見て、一部を体験することで職人技の素晴らしさを実感できる。 ・専属のガイドが中山道の宿場町の滞在と、赤沢休養林にて良質な木のストーリーへご案内する。 ・職人との交流を通して、櫛にかける想いを聞くことができる。	・ストーリーが繋がる2つの伝統工芸を体験。専属ガイドがそれぞれの職人のもとへご案内する。 ・つくった和紙で手紙を出すことができる。 ・自分の好きな組み合わせの水引細工を作ることができる。
サステナブル要素	・現在1社のみになった伊那紬の生産者。コンテンツに参加することによって職人への対価と、伊那紬の購入に繋げる。	・後継者不足でありながらも地元の人々が守ろうとする伝統工芸のお六櫛。コンテンツに参加することによって職人への対価とお六櫛の購入に繋げる。	・後継者不足のひさかた和紙と、社会の変化によって需要が減りつつある水引細工。コンテンツに参加することによって職人への対価と、それぞれの購入に繋げる。

これらの伝統工芸の体験を主体としたコンテンツにモニターツアー及びファムトリップで実証を行った宿泊施設を中心にお客様のニーズに合わせて宿泊を組み合わせることで、滞在型のツアーとして販売を行っていく想定である。

<上伊那>

「伊那紬」ジャパンシルクの逸品、職人技が織りなす紬を体感

長野/上伊那



HIGHLIGHT

- ・良質で肌ざわりのよい伊那紬を着ることが出来ます。
- ・伊那紬がなぜ発展したのか、原料のシルクのストーリーを専属のガイドが案内。
- ・現在もひとつひとつ手織りしている伊那紬の職人と交流ができます。
- ・伊那紬を守っている唯一の会社、久保田織染工業にご案内。

地域資源/ストーリー

伊那谷の土地では、米を作る代わりに発展した養蚕業。良質なシルクを作り、輸出をしました。販売ができない、出来損ないの蚕を使って織られた「伊那紬」。出来損ないの蚕とは言いつつ、とても良質で肌触りの良い高級品です。全て手織りであるため量産ができず、後継者不足などの課題も抱えながらも現在も紡がれています。

カテゴリ

☒ Tradition ☐ Cuisine ☐ City ☐ Nature ☐ Art ☐ Relaxation ☐ Outdoor

体験詳細

伊那紬の材料であるシルクについて学んだ後、伊那紬を着て散策します。その後、現在唯一の伊那紬を製造している「久保田織染工業」にて、伊那紬が作られる過程を見学し、伊那紬織る体験をします。こだわりの持つひとつひとつ手作りをしている職人との交流ができます。

スケジュール

[09:00] 集合、移動
[09:30] 伊那紬の着付け
[10:00] 駒ヶ根シルクミュージアムにて駒ヶ根エリアのシルクの歴史を学ぶ
[11:15] 着物にて周辺散策
[12:15] 着物返却
[13:15] ランチ(シルクミュージアム内レストランにてビュッフェ)
[13:30] 移動
[14:00] 久保田織染工業：伊那紬製造過程の見学と機織り体験後
[15:00] お茶を飲みながら職人と交流
[16:00] JR駒ヶ根駅にて解散

その他プラン情報

■参加条件
180cm以上の方は着物のサイズがないため、参加することができません。

■ミーティングポイントと住所
集合場所：JR駒ヶ根駅
〒399-4106 長野県駒ヶ根市東町1

■キャンセルポリシー
旅行開始の20日前～8日前 20%
旅行開始の7日前～2日前 30%
旅行開始の前日 40%
旅行開始当日 50%
旅行開始後または無連絡不参加の場合 100%

■注意事項の喚起
◆駒ヶ根シルクミュージアム
参加人数によって着物の着替えの時間が変わる場合がございます。
身長、体形、および好みを予約時にお伝えください。
◆久保田織染工業
実際に働いているところを見学しますので、機織りしているスタッフには話しかけないようお願い致します。写真撮影をする際はガイドにお声掛けください。

現地交通費は現地払いとなります。予めご了承ください。

■緊急対応の準備(no show, 天候不良、遅刻etc.)
台風や大雨の場合は催行不可です。(小雨催行)
体験前日までに電話でご連絡いたします。

価格情報

- 価格(税込)/人 1名参加
36,800JPY/2名参加19,700JPY
3名参加14,000JPY/4名参加11,150JPY
- オプション/価格(税抜)
- 含まれるもの
ガイド料、体験料、食事代(昼食:1回)
- 含まれないもの
宿泊費、現地交通費 ※宿泊、現地交通手配のご相談も承ります

言語対応

- 対応言語
☒ Japanese ☐ English ☐ Chinese ☐ Other ()
- 通訳ガイドの有無
☒ Yes ☐ No
- 通訳ガイドの対応言語やその他ガイド情報
- 言語補完ツール

受け入れ情報

- 実施期間・実施回数
月・火・木・金曜日
- 所要時間・開始時間
7時間 9:00～
- 催行人数(最大/最小)
1人～4人
※3名以上の場合は着付けの時間で行程が変更になる可能性があります。
詳しくはお問い合わせください。

ACCESS



集合場所: JR駒ヶ根駅
〒399-4106 長野県駒ヶ根市東町1
アクセス:
JR塩尻駅より約1時間半
新宿駅よりバスにて約4時間

■保険対応

■在庫管理 ☐ Yes ☒ No ■カットオフ
2週間前

■問い合わせ対応可能時間 10時～17時

■問い合わせメールアドレス(会社名/担当者名)
attractive-j@chibra.co.jp (株式会社地域ブランディング研究所)

施設設備情報

- wifi 環境 ☐ Yes ☒ No
- web予約 ☒ Yes ☐ No ()
- クレジット対応 ☐ Yes ☒ No ()
- トイレ ☒ 洋式 ☐ 和式 ☐ なし
- 耐震設備 ☐ Yes ☒ No
- 非常食 ☐ Yes ☒ No
- 救命講習受講者 ☐ Yes ☒ No
- 消火設備 ☒ Yes ☐ No
- 防災マニュアル ☐ Yes ☒ No
- 非常用電源 ☐ Yes ☒ No
- 避難マップ ☐ Yes ☒ No
- バリアフリー ☐ Yes ☒ No
- サイト情報(予約サイト等)
<https://attractive-j.com/experiences/PWHOLD>
- 食文化対応

地域情報

■周辺の主要観光地、スポット、宿泊施設

■前後で体験可能なコンテンツ

<木曽>

「お六櫓」中山道の宿場町で木曽の木から生まれる匠の技を体験

長野/木曽



HIGHLIGHT

- ・細かく丁寧な職人技を近くで見て、一部を体験することで職人技の素晴らしさを実感。お六櫓を持ち帰ることができます。
- ・職人との交流を通して、櫓にかける想いを聞くことができます。
- ・後継者不足でありながらも地元の人々が守ろうとする伝統工芸のお六櫓。

地域資源/ストーリー

中山道で人々が行き交った木曽。気候等の特性からヒノキなどを代表する良質な木が育ち、木材を使った製品をつくり、販売してきました。「お六櫓」は今でも職人がひとつひとつ丁寧に作っています。職人自身に合わせた道具を使うため、道具も手作り。職人技で細かく挽かれた櫓は、壁の毛の汚れを綺麗におとし、頭皮を刺激し血行を良くする効果もあります。昔ながらの日本の情緒を感じる中山道を歩きながら、職人のこだわりにふれてみませんか。

カテゴリ

☒ Tradition ☐ Cuisine ☐ City ☐ Nature ☐ Art ☐ Relaxation ☐ Outdoor

体験詳細

木祖村郷土館で歴史やお六櫓について学んだ後、職人の実演を見学します。職人の作業を一部体験することで、職人技の素晴らしさを実感してみましょう。体験後はお茶を飲みながら職人さんと交流タイムがあるので、こだわりやこれまでの人生など、伝統工芸を作り続けてきたストーリーについて聞くことができます。

スケジュール

[09:15] 敷原駅集合＝徒歩移動＝
[09:30] 木祖村郷土館：木祖村やお六櫓の歴史の紹介
[10:30] 職人の実演を見学と手拭き体験
[11:30] 職人とお茶で触れ合いタイム
[12:00] 敷原宿散策
[13:00] おきのや：そばのランチ
＝徒歩移動＝
[14:15] 敷原駅解散

その他プラン情報

■参加条件
安全上の理由から、12歳未満の方は体験ができません。

■ミーティングポイントと住所
集合場所：JR敷原駅
〒399-6201 長野県木曽郡木祖村敷原

■キャンセルポリシー
ご予約日の7日前～ 40%
ご予約日の3日前～ 60%
ご予約日の前日～当日 100%

■注意事項の喚起

お六櫓は右利き用の道具しかありません。予めご了承ください。

■緊急対応の準備(no show、天候不良、遅刻etc.)

台風や大雨の場合は催行不可です。(小雨催行)
体験前日までに電話でご連絡いたします。

価格情報

■価格(税込)/人
2名参加25,050JPY/3名参加27,850JPY
4名参加24,300JPY/5名参加22,100JPY

■オプション/価格(税抜)

■含まれるもの
ガイド料、体験費(お六櫓付)、食事代(昼食：1回)

■含まれないもの
現地交通費

言語対応

■対応言語
☒ Japanese ☐ English ☐ Chinese ☐ Other ()

■通訳ガイドの有無
☒ Yes ☐ No

■通訳ガイドの対応言語やその他ガイド情報

■言語補完ツール

受け入れ情報

■実施期間・実施回数
月・水曜日と年末年始(12/29～1/3)を除く

■所要時間・開始時間
5時間 9:15～

■催行人数(最大/最小)
2人～5人

ACCESS



集合場所：JR敷原駅
〒399-6201 長野県木曽郡木祖村敷原
アクセス：
JR塩尻駅より電車にて約30分

■保険対応

■在庫管理 ☐ Yes ☒ No ■カットオフ
5日前

■問い合わせ対応可能時間 8時30分～17時30分

■問い合わせメールアドレス(会社名/担当者名)
info@visitkiso.com (一般社団法人木曽おんたけ観光局)

施設設備情報

■wifi 環境 ☐ Yes ☒ No ■web予約 ☒ Yes ☐ No ()

■クレジット対応 ☐ Yes ☒ No () ■トイレ ☒ 洋式 ☐ 和式 ☐ なし

■耐震設備 ☐ Yes ☒ No ■非常食 ☐ Yes ☒ No

■救命講習受講者 ☐ Yes ☒ No ■消火設備 ☒ Yes ☐ No

■防災マニュアル ☐ Yes ☒ No ■非常用電源 ☐ Yes ☒ No

■避難マップ ☐ Yes ☒ No ■バリアフリー ☐ Yes ☒ No

■サイト情報(予約サイト等)
<https://attractive-j.com/experiences/PTL1ER>

■食文化対応
アレルギーや宗教など、予約時にお知らせください。

地域情報

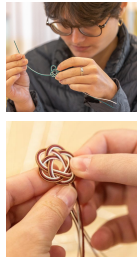
■周辺の主要観光地、スポット、宿泊施設

■前後で体験可能なコンテンツ

< 南信州 >

「和紙と水引細工」美しく繊細な日本文化をたどる

長野/南信州



HIGHLIGHT

- ・ストーリーが繋がる2つの伝統工芸を体験。
- ・専属ガイドがそれぞれの職人のもとへご案内。
- ・つくった和紙で手紙を出すことができます。

地域資源/ストーリー

南信州(飯田)エリアでは、天竜川が流れ、豊富な水資源から和紙づくりが発展しました。丈夫で良質な和紙から待の髪を結ぶ「元結」がつけられ、そこからさらに発展した水引は縁起がいいものとされています。それぞれの職人が日本らしい和紙・水引を作り続けています。

カテゴリ

☒ Tradition ☐ Cuisine ☐ City ☐ Nature ☐ Art ☐ Relaxation ☐ Outdoor

体験詳細

和紙の材料である植物「楮」を見学した後、実際に和紙づくりを体験します。自分オリジナルのハガキを作ります。※季節により内容変更の可能性あり
和紙づくり体験の後は水引細工を作ります。
和紙と水引の密接なストーリーにも注目してください。

スケジュール

[08:30] 集合、移動
[08:45] 下久堅公民館：楮畑にて原材料の見学および収穫等
[09:30] ★和紙づくり体験：ハガキの制作後、お茶を飲みながら職人と交流
[10:50] ★水引細工体験：職人の実演見学後、制作体験
[12:15] 今宮半平で、五平餅ランチ
[13:45] 移動、解散

その他プラン情報

- 参加条件
特になし
- ミーティングポイントと住所
集合場所：JR飯田駅
〒399-2566 長野県飯田市 上飯田5356
- キャンセルポリシー
旅行開始の20日前～8日前 20%
旅行開始の7日前～2日前 30%
旅行開始の前日 40%
旅行開始当日 50%
旅行開始後または無連絡不参加の場合 100%
- 注意事項の喚起
特になし
- 緊急対応の準備(no show, 天候不良、遅刻etc.)
台風や大雨の場合は催行不可です。(小雨催行)
体験前日までに電話でご連絡いたします。

価格情報

- 価格(税抜)
2名参加55,050JPY/3名参加41,400JPY
4名参加34,550JPY
- オプション/価格(税抜)
- 含まれるもの
ガイド料、体験料、現地交通費、食事代(昼食:1回)
- 含まれないもの

言語対応

- 対応言語
☒ Japanese ☐ English ☐ Chinese ☐ Other()
- 通訳ガイドの有無
☒ Yes ☐ No
- 通訳ガイドの対応言語やその他ガイド情報

言語補完ツール

受け入れ情報

- 実施期間・実施回数
月・火・木・金曜日
- 所要時間・開始時間
5時間15分 8:30～
- 催行人数(最大/最小)
2～10人 ※5名以上はお問い合わせください

ACCESS



集合場所: JR飯田駅 [MAP]
〒399-2566 長野県飯田市 上飯田5356
アクセス:
名古屋駅よりバスで約3時間

保険対応

- 在庫管理 ☐ Yes ☒ No
- カットオフ
2週間前
- 問い合わせ対応可能時間
8時30分～17時30分
- 問い合わせメールアドレス(会社名/担当者名)
oyorite@mstb.jp (株式会社南信州観光公社)

施設設備情報

- wifi 環境 ☒ Yes ☐ No
- web予約 ☒ Yes ☐ No ()
- クレジット対応 ☐ Yes ☒ No ()
- トイレ ☒ 洋式 ☐ 和式 ☐ なし
- 耐震設備 ☐ Yes ☒ No
- 非常食 ☐ Yes ☒ No
- 救命講習受講者 ☐ Yes ☒ No
- 消火設備 ☒ Yes ☐ No
- 防災マニュアル ☒ Yes ☐ No
- 非常用電源 ☐ Yes ☒ No
- 避難マップ ☒ Yes ☐ No
- バリアフリー ☐ Yes ☒ No
- サイト情報(予約サイト等)
<https://attractive-j.com/experiences/PNWT-JQ>
- 食文化対応
アレルギー等については、予約時にお知らせください。

地域情報

■周辺の主要観光地、スポット、宿泊施設

■前後で体験可能なコンテンツ

7. 情報発信・販路開拓等に資する制作物の作成

造成したコンテンツの情報発信や販路開拓等に資する制作物として、「動画」「体験記事」「ランディングページ」を作成した。なお、これらは各地域の観光資源の希少価値や次世代への継承についてなど、「サステナブル」な活用・保全への理解を促進するものでもある。概要は以下のとおりである。

●制作物作成の基本指針

<与件整理>

○動画

- ・ 造成したコンテンツの情報提供、各地域の観光資源の希少価値や次世代への継承についてなど、「サステナブル」な活用・保全への理解を促進する動画を制作（7分程度、2本以上）。
 - 地域別の動画3本（3本で約7分）3地域をつなげて編集した1本（約3-4分想定）。
 - 構成要素は「地域資源・歴史」「職人の手仕事」。
- ・ 対象市場・ターゲットの目線で制作
 - 中山道のメインターゲットである欧米層を対象に制作。
- ・ 字幕を入れる場合は、字幕なしパターンも合わせて納品
 - 音声に職人の方々の生声を挿入予定。該当パートには字幕を挿入。
- ・ 海外目線での映像制作指針
 - 映像のテーマの主軸を、伝統工芸が今に至るまで受け継がれてきた職人の方々の不断的努力と歴史背景と地域資源の恵みが織りなすものであるという気づきを与えるものにすべく、守られてきた職人の技や実際の工房、歴史背景に関連する地域資源を中心に構成することで、「伝統工芸の歴史」の重みを丁寧に伝え、観た後に伝統工芸を目的に地域に訪れたいと思わせる映像を目指す。
 - 中山道に訪れる多くの欧米系の観光客は、その伝統的な町並みや文化を楽しむことを一番の目的としており、その場所で生まれた伝統工芸の歴史背景を職人本人から聞けることに価値を感じる。映像全体の音声には職人の方々の生声（英語字幕付き）を挿入し、映像を観た人が臨場感を持って現場の雰囲気を感じられるようにする。
 - 職人のこだわりや、紡いできたものは、地域や国をこえて受け入れられ、参加者の顔を真面目に、そして笑顔にする力がある。映像中には職人の技や物づくりに打ち込む姿勢に焦点を当てて紹介しつつも、地元や職人とモニター参加者との対話や交流の様子のカットを挿入することで国内外に通じる文化の魅力を表現する（モニター参加者が伝統工芸に触れているシーンを含む）。

○体験記事

- ・ 作成した体験記事はランディングページ及び長野県公式観光ウェブサイト「Go

NAGANO」等に掲載する。

- 各地域における伝統工芸事業者・職人に焦点を当てた地域別の体験記事を作成。

○ランディングページ

- ・ 作成したコンテンツのWEB上における販路確保（OTA等を含む効果的な販売システムへの登録）、及びそれらに連動するランディングページを制作する。制作したランディングページは、連携する観光協会のホームページ、長野県公式観光ウェブサイト「Go NAGANO」等へ連動する。

販路確保は、地域ブランディング研究所が提供しているオンライン販売システム「Attractive JAPAN」に登録。

<動画の一部抜粋（上伊那/木曽/南信州）>



各地域の詳細版はランディングページのリンク先をご参照

<体験記事の一部抜粋（上伊那/木曽/南信州）>



（タイトル）

110年以上引き継がれてきた技術と自然の風物を活かした色彩。「伊那紬」が紡ぐ伝統文化。

翻訳文

Colors made by Techniques have been continued over 110 years and Natural Elements.
Traditional Culture Spun by Ina Tsumugi.

（リード文）

通称「姫街道」とも呼ばれる長野県旧中山道の近くにある上伊那地域。このエリアは、農家の手仕事から生まれた数多くの伝統工芸が受け継がれています。その中で、今回は上伊那地域の「伊那紬」をご紹介します。

翻訳文

In the area around the old Nakasendo path in Nagano Prefecture, also known as "Hime Kaido". There are many traditional crafts, which is born from the handiwork of farmers, have been continued. Among them, this time we will introduce *Ina tsumugi* from the Kamiina region.

（本文）

女性たちが家族のために織った反物から始まった伊那紬の歴史・文化。



(タイトル)

地域の“伝説”から生まれた工芸品を大切に守る。「お六櫛」
が紡ぐ伝統文化。

翻訳文

Protected Craft Born From Local Legend. The
Traditional Culture Rooted in the Orokugushi Comb.

(リード文)

通称「姫街道」とも呼ばれる長野県旧中山道周辺。このエリアは、山と宿場で生活する人々の手
仕事から生まれた数多くの伝統工芸が受け継がれています。その中で、今回は木祖地域の「お
六櫛」をご紹介します。

翻訳文

In the area around the old Nakasendo in Nagano Prefecture, also known as Hime Kaido,
many traditional crafts born from the handiwork of farmers have been handed down. Among
them is the Orokugushi comb from the Kiso area.

(本文)

豊かな森林資源に恵まれた地で育まれた木工品の歴史・文化



(タイトル)

木を育て、紙を漉き、つながりを結ぶ。「和紙」と「水引」が紡ぐ伝統文化。

翻訳文

Grow Trees, Make Paper and Connections. Traditional Culture Spun by Washi and Mizuhiki.

(リード文)

通称「姫街道」とも呼ばれる長野県旧中山道周辺。このエリアは、農家の手仕事から生まれた数多くの伝統工芸が受け継がれています。その中で、今回は南信州地域の「ひさかた和紙」と「飯田水引」をご紹介します。

翻訳文

In the area around the old Nakasendo in Nagano Prefecture, also known as Hime Kaido, many traditional crafts born from the handiwork of farmers have been handed down. Among them are Hisakata Washi and Iida Mizuhiki from the Minami Shinshu region.

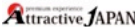
(本文)

地の利を活かして育まれた和紙と水引の歴史・文化

翻訳文

各地域の詳細版は別添資料ご参照

<OTA登録の一部抜粋（上伊那/木曽/南信州）>


[About Attractive JAPAN](#)

[For Travel Agency](#)
[English](#)

[Home](#)

Experience the Excellence of Japanese Silk: Handwoven Ina Tsumugi



¥11,150

⌚ Duration: 7 Hour(s) (approx.)
 📍 Location: Komagane-shi, Nagano
 Product code: EN-NGN-7273-72731

Start Booking Now

Enter Number of Participants *

Participants

Choose a Date *

March 2023						
M	T	W	T	F	S	S
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

Choose a Time *

9:00 AM - Available

Price(JPY) **¥36,800.00**

BOOK NOW

Please note: This product is on request. We will confirm availability within the shortest possible time after we receive your order.


[About Attractive JAPAN](#)

[For Travel Agency](#)
[English](#)

[Home](#)

Experience the Craftsmanship of the Oroku Comb born in Kiso



¥22,100

⌚ Duration: 5 Hour(s) (approx.)
 📍 Location: Kiso-gun, Nagano
 Product code: EN-NGN-7272-72721

Start Booking Now

Enter Number of Participants *

Participants

Choose a Date *

May 2023						
M	T	W	T	F	S	S
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

Choose a Time *

9:15 AM - Available

Price(JPY) **¥70,100.00**

BOOK NOW

Please note: This product is on request. We will confirm availability within the shortest possible time after we receive your order.

Attractive JAPAN [About Attractive JAPAN](#) [For Travel Agents](#) | [English](#)

> Home

Experience Delicate Japanese Culture: Japanese Paper & Mizuhiki

Nagano



¥34,550

⌚ Duration: 6 Hours (approx.)
📍 Location: Ida-shi, Nagano
📦 Product code: EN-NGN-7274-72741

Start Booking Now

Enter Number of Participants *

Participants

Choose a Date *

March 2025

M	T	W	T	F	S	S
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

Choose a Time *

8:30 AM - Available

Price(JPY) **¥110,100.00**

BOOK NOW

Please note: This product is on request. We will confirm availability within the shortest possible time after we receive your order.

各地域の詳細版は以下のリンク先をご参照

【上伊那】 <https://attractive-j.com/experiences/PWHOLD>

【木曽】 <https://attractive-j.com/experiences/PTL1ER>

【南信州】 <https://attractive-j.com/experiences/PNWTJQ>

※Attractive JAPANについて

株式会社地域ブランディング研究所の持つ販路拡大プラットフォーム Attractive JAPAN により、海外の主要OTA（Online Travel Agency）、海外旅行会社、各地域の関連Webサイトといった、多種多様な販路で一括販売を実施。予約オペレーションの代行、海外との契約代行、多言語サポート機能を有することで、事業者は負担なく海外に販路拡大することが可能。



特徴①
販売チャネルの拡大



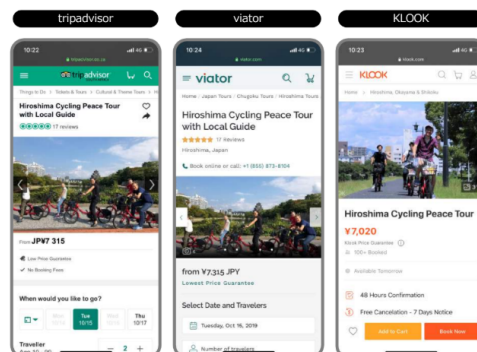
特徴②
予約業務を一括で管理



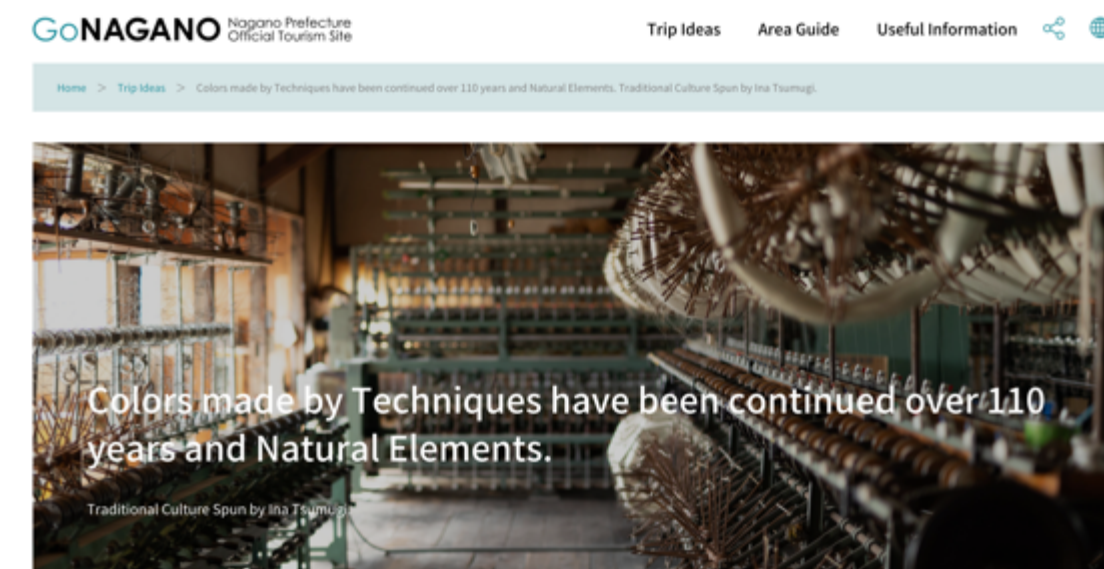
特徴③
多言語対応



特徴④
商品造成のサポート



<ランディングページの一部抜粋>





詳細版は以下のリンク先をご参照

<https://www.go-nagano.net/en/hime-kaido/landing/>

<https://www.go-nagano.net/en/theme/id=20965>

<https://www.go-nagano.net/en/theme/id=20963>

<https://www.go-nagano.net/en/theme/id=20961>

8. 業務の総括ならびに今後の課題

本事業を通じて、地域の関係者の皆様と連携・協力を図りながら、日本の伝統文化に関心のある欧米豪出身者をターゲットとした滞在型コンテンツを上伊那、木曽、南信州の各地域に対して造成することができた。これらは、伝統工芸における製作工程の再現や体験、匠の技術の紹介を誘客コンテンツとして磨き上げながら、それらを守り続けてきた地域住民との交流を促し、この伝統工芸が後世に残されることに寄与する滞在型となっている。

＜商品造成のプロセス概要＞

4-7 月	○対象資源の選定と協力依頼 ・伝統工芸事業者・職人の皆様、宿泊施設、関連観光施設・組織 等
8-9 月	○ガイド研修 ・【第1回】伝統工芸の高付加価値プログラムの在り方・講義/ワークショップ ーサステナブルツーリズムのトレンド ー欧米豪の知的好奇心の高い層に評価されるポイント ー造成案コンテンツの満足度を向上させる演出 /等 ・【第2回】インバウンド専門家を交えた現場研修 ー3 地域内で選定された地域資源/コンテンツの“現場”に伺い、「ガイドを行ううえでのポイント」を専門家も交えて深堀り。
10 月	○モニターツアー ・欧米豪(フランス、メキシコ)のモニターを招いて検証。→磨き上げ
1 月	○ファムトリップ ・欧米豪をターゲットする海外旅行会社を招いて検証。→商品への落とし込み

●地域の皆様の認識・評価

本事業は地域の皆様のご理解がなければ持続不可能である。地域の皆様の認識・評価の現在地を把握しておくことが肝要であるため、商品造成工程終了時に以下の関係者の皆様を対象に振り返りのアンケート調査を実施した。事業の持続・発展の前提となる観点の認識・評価を伺った。

＜アンケート対象者＞

- ・連携主体関係者会議の構成員の皆様（各地域の観光協会、DMO 等）
- ・伝統工芸事業者・関係者の皆様
- ・ガイドの皆様
- ・その他、各地域の観光関係事業者の皆様

◆サステナブル・ツーリズムへの理解は深まったか。

大半の方が本事業への関わりを通じて、事業趣旨の根幹である「サステナブルツーリズム」への理解を深めて頂いた結果となっている。

- | |
|-----------------------------|
| 【3/14】①(事業当初より)大いに理解が深まった |
| 【7/14】②(事業当初より)多少理解が深まった |
| 【4/14】③(事業当初より)変化はない(わからない) |
| 【0/14】④判断が難しい |

◆「伝統工芸が後世に残されることに寄与する滞在型コンテンツを造成すること」という

点をどのように認識・評価しているか。

本観点についても、大半の方が本事業への関わりを通じて、事業実施・継続動機の根幹である「伝統工芸が後世に残されることへの寄与」について必要性を感じて頂いた結果となっている。これらが、真に寄与するかどうかは、「今後のこの事業の成果にかかっている」といったコメントに集約されており、事業期間終了後の対応が重要になる。

- 【7/14】①(事業当初より)大いに必要性を感じる
- 【5/14】②(事業当初より)必要性を感じる
- 【0/14】③(事業当初より)必要性に変化はない(やや厳しい)
- 【2/14】④判断が難しい

〈アンケートより抜粋(一部、表現等を精査)〉

- ・本事業の研修で「伝統工芸が後世に残されることに寄与する滞在型コンテンツを造成することをテーマとする」という説明があり、その部分に共感してこの事業に協力することを決めました。
- ・伝統工芸は日本の文化として残ってほしい。何より日常の道具として使われることや、生業として続けられ、環境が整う一つの柱にインバウンドの観光コンテンツがなければ素晴らしいと思います。
- ・「伝統工芸が後世に残されること」は地域の課題であり、インバウンド向けのコンテンツ開発、磨き上げは重要であると認識している。
- ・伝統工芸の継承が厳しい現実を改めて共有できたことと、経営者の方々が今回の事業が伝統工芸の今後につながるものの一つだと感じていただけたことはとてもよかったと思います。
- ・この事業を通じて職人の後継者育成が大変厳しい状況にあるということも分かっていただきました。
—後継者を育成することは最も大事ですが、大勢の方に知ってもらうことも大事なことであり、理解してもらう良い企画だと思います。
- ・本事業により観光と伝統工芸が結びついて活性化した結果、新しい人材が出てくることを願っています。関わった職人さんも、研修やファムトリップを通して方向性を感じたと思います。
- ・今後のこの事業の成果にかかっている。
- ・現場現地で、伝統工芸を継承している人たちは、自分たちの伝統工芸の継続、維持・発展に対して熱意が高いことを実感できた。
- ・当初は対象となる伝統工芸そのものも知らなかったが、実際に関わってその良さがわかってくると、何とかこの伝統工芸を後世に残していきたいし、日本、海外を問わず、多くの方にも知って頂きたいという思いが強くなった。
- ・従来までのツアーは、旅行会社からの要望が強く、職人に無理や負担がかかるツアーが多かったことから採算性に乏しく職人の負担も多かった。
—今回は商売を目的とする職人が普段の仕事の延長線上にこのツアーの受け入れがあり、毎日の仕事の一部となることが期待されることから必要性を感じた。職人にスポットを当てることで一歩前進した感があった。
- ・各エリアの伝統工芸は一つのみではないこともあり、伝統工芸の持続に焦点を当てた今回の事業をモデルケースとして、さらに他エリアでも造成されることを願っております。

◆欧米豪の外国籍の方を引き続きお客様として対応していく点をどのように認識・評価しているか。

本観点についても、大半の方が本事業への関わりを通じて、事業性・経済性の根幹である「欧米豪の外国籍の方がお客様である」ことについて可能性を感じて頂いた結果となっている。頂いたコメントの中に「一般の方々の評価がまだはっきり見えていない」といったことが聞かれた。本事業の中では、エンドユーザーからの直接の評価・検証は十分に行えていないため、インバウンド回復に伴うマーケットトレンドを十分に把握したうえでの評価・検証による磨き上げが肝要になる。

- 【5/14】①(事業当初より)大いに可能性を感じる
【8/14】②(事業当初より)可能性を感じる
【0/14】③(事業当初より)可能性に変化はない(やや厳しい)
【1/14】④判断が難しい

＜アンケートより抜粋(一部、表現等を精査)＞

- ・外国の人たちが、地域の歴史・風土と結びつけて伝統工芸品に興味を持ち理解が深まり、その結果が、日本を楽しめる観光商品になっていることは大変良いことだ。
- ・体験型のコンテンツはとても良いと感じました。2時間ぐらい体験して、その体験で作成された伝統工芸を持ち帰ってもらおうというのが、とても良い経験になると感じます。また、それらの体験は日本文化を体験したという、心に残る旅行になると改めて感じました。
- ・欧米豪の方は、櫛にはあまり関心がないととらえていたが、事業を通して、歴史・製法・職人さんの暮らしなど理解が深まると、大変な興味を持ってもらえるということが分かった。
- ・実際に伊那紬を着て頂くことで、その良さは実感頂けると思う。
- ・コロナ以前より福島宿エリアでは関所資料館、代官屋敷などの施設と街歩きで外国人観光客が訪問していました。少人数でのグループ、家族旅行など密にならず感染対策をした上で外国からの来訪者がある程度戻ってくると良いと考えている。
- ・英語での4月以降の宿泊等の問い合わせメールもひっきりなしに入るため、各種メニューを紹介するには良い傾向になってきている。
一案内所の窓口に来訪する欧米豪と思われる旅行者の多くは、紙のパンフレットや包装を断る場合が多く、環境等にも気を遣っていることが伺え、環境配慮も含め対応が求められつつある感覚がある。
- ・欧米豪が中心になると思いますが、日本文化や伝統工芸品の製作に興味を持っている人であれば、アジア人(シンガポール、マレーシア、台湾、香港など)でも、ターゲットになるのではないかと感じます。

○留意点

- ・観光関係の方々が評価していただけてうれしいのですが、一般の方々がどう見ることがはっきり見えてきません。
- ・旅行商品が今まで以上に職人に対して負担がかかったり、日々の仕事に影響を与える頻度となることは長続きしないだろうと考える。

◆全般的なご意見

事務局の力量不足を露呈した部分も多分にあるが、建設的なご指摘が聞かれた。

＜アンケートより抜粋(一部、表現等を精査)＞

○合意形成・体制・初動等について

- ・今回の事業については当初からゴールが見えづらく、各人の役割や立ち位置を理解しないうちに事業が進んできた感があり、戸惑う場面が多かったように思います。当初の段階でポイントを押さえ、目的と役割を明確化したうえで進めることがスムーズな推進とさらなる実効性に繋がると感じました。
- ・以前から本事業の構想はあったと思うが、実際に地元におりてきたのが令和 4 年夏です。もっと早くから一緒に創り上げられなかったものかと思います。
- ・もう少し地域として必要と思われるコンテンツの洗い出しや、自ら手を上げられるようなコンテンツ、こういった事業を必要としている方々へのヒアリングから実態を確認した上で取り組むことで成果も得られると感じました。
- ・姫街道エリアで何が検討されて、どのような経緯で今回の伝統工芸品の選定につながったのかを関係者全体に共有できる場面がもっと早めであればよかったと思います。
—長野県に住んでいる人でも知らない伝統工芸内容であったし、今後どのように調査して、ツアーとして成立させるのかといったシナリオを関係者で議論しながら深堀りしたり、もう一度鳥瞰して落ち漏れがないようにする必要があったか。
- ・事業開始時点で地域関係者(DMO・事業者等)との事業内容、方向性等の認識をすり合わせておくことが必要。
—教育旅行、一般、インバウンドと一つのコンテンツで設定料金、受入条件等が変わる場合もあり、コーディネーターの役割を担うポジション(各地域のDMO等)が必要。本事業の場合も事業開始時からその体制が取れていれば各地域との連携もスムーズだったのではないか。
- ・事務局の担当の方々の移動が大変そうで、その影響も少なからずあったようにみえましたので、現地あるいは塩尻、松本などに1名オンサイトで常駐いただいたとすれば、より円滑に事業が進んだようにも思われました。
- ・会議でも何度か発言したことへの対処に進展がなかったことが残念に感じます。

○対応指針や水準等について

- ・事務局が、地域の人たち・組織を大事にして事業を進めるという姿勢は感じました。しかし、成果としては、「実際にお客様が来てなんぼ」という感じです。
- ・木曽エリア、上伊那エリア、飯田エリアが、連携するようで連携しなかった。その後、連携しすぎるとツアーづくりが難しくなるということは分かったが。
—一方で、3つをつなげた場合はどのようになるのか？そのつなぎ方の討議は、事務局の提案で簡単に討議してみるのもよかったのではないか。
- ・ガイド研修の設計や学び、その後の対応は十分だったのか。
—ガイド研修というタイトルから、ツアーを作るとか、実際のガイドを行う時のポイントとか、お客様に強調するところの3つのエリアのガイドで合わせるところとか、ガイドのスキルとして身につけなければならないことを勉強して、それらを各エリアのガイドの間で標準化するのかなと思っていましたが。
—欧米豪のお客様を想定していますが、どの様なものを見たい・聞きたい・知りたいのかを具体的に教えていただく場が必要だったのではないか。顧客のニーズに対してツアーを作りこむのが、事務局、ガイドの役割だったのでないでしょうか。どんな人がお客様なのかを、事務局の外国人スタッフも含めて、プロファイリングして、お客様のイメージを共有できればよかったか。
- ・反省点など、腑に落ちないまま(あまり認識していないまま)ファムのプログラム作

りに移っていった感じです。

○今後の展開について

- ・限られた事業期間で本質的な試行錯誤が不可避な事業のなかで、地域の課題を解きほぐしながら客観的な視点を持ち合わせて事業を進めていただき、未来志向の流れを作っていたのではないのでしょうか。
- ・どの組織がどのように関わっていたのか、正直あまりよく分からなかった。せつかく良いコンテンツを造ることができたとしても、今後どこが主体で関わっていくのが分からない。継続して更に良いものにしていけるよう、地域が主体で関われるよう、道筋をつけて頂くとありがたいと感じた。
- ・インバウンドに特化した事業は今回が初めてでしたが、おしなべてどの事業も事業そのものが目的となってしまうと、本来の得られるべき成果が乏しかったと感じています。この事業の今後に期待しています。
- ・職人さんに負担がかからないスタイルでの受け入れを模索しました。ただ、今後そのことがツアーにおいてお客様の満足度が欠けたり、商品にならない場合もあるかと思われます。ただ現実的には人材的に不足していたり高齢化する中では、負担を極力減らす必要が長続きをする為のものであると思っています。

●今後の課題

今後、事業を継続・発展させていくうえで、乗り越えなければならない課題についても地域の皆様から具体的な認識、ご意見を頂戴している。まずは、事業期間終了後に課題テーマ毎に該当する関係者を招聘して議論を行うことが次の一步となる。その際の論点や留意点等について、地域の皆様からのご意見等も勘案したうえで、課題ごとに整理を行った。

◆遂行体制について

事業終了後は、その造成した商品を販売していくことに主眼が移っていく。そのため、これからのリード役は販売主体(地域のDMO等)に期待されるところとなる。一方で、インバウンド向けの販売体制や経験等については、各地域の販売主体に十分にあるというわけではないため、今後は本事業では事務局を務めていた日本旅行、地域ブランディング研究所が、本業でもある旅行商品販売事業者として、各地域の販売主体とビジネスパートナーとして、連携を図りながらインバウンド販売をリードしていくことが考えられる。

なお、上記を確実なものとして実行していくうえで、本事業内の対応だけでは不足していた点として、欧米豪の実際のエンドユーザーを対象とした有料モニターツアー/テスト販売による検証・磨き上げが上げられる。場合によっては、本事業のような各種公的支援の枠組みを継続して活用し、実践的な商品の磨き上げ、体制構築等を行うところまでを、関係する皆様と丁寧に行ったうえで、本格的な販売へシフトしていくような流れの方が関係する皆様も安心して関わっていくことができるかもしれない。

<アンケートより抜粋(一部、表現等を精査)>

○継続議論とリード役の明確化

- ・販売やPRはこれからのアクションアイテムなので、引き続き各地域の人たちと話し合いながら、継続していくことが必要だと感じます。リードする人がいなくなると失速するので要注意だと思います。
一県なども巻き込み、地域と協力しながらどのような体制で商品のブラッシュアップを行っていくのか、そのリード役を決めておくことが重要。
- ・1にも2にもまずはこの商品に関心を持って、頻繁とはいかなくても通年で外国の観光客が来る実績ができるとよい。日本旅行、地域ブランディング研究所にはそのためのサポートを強力にお願いしたいし、地元DMOには軌道に乗るように頑張っていたきたい(助成事業でモニターツアーまで行ったが、本番はなかったという例が多いので)。

○地域横断的な連携体制の強化

- ・地域を横断した面的な取り扱いが必要であると考え。効果的なPRをするための体制整備や販売体制の確立に向けた連携を進めていきたい。
- ・伊那・飯田と木曽を広域に巡るツアーの道筋を立ててほしい。

○丁寧な合意形成の継続

- ・生活文化が違う外国人を受け入れることに対しての留意点について受け入れ側としての事前学習はその都度(ツアー毎)必要。
- ・ツアーの頻度が不明確な中で、実際に少ない職人で対応が出来るかどうか心配(販売前に十分な打ち合わせが必要)。

○近隣まで訪れている外国籍の方へのPR

- ・今までも木曽中山道を歩く外国人は多いので、そういう観光客にもこの企画の趣旨が伝わり、途中からでも伝統工芸品に触れる機会はできないか。

◆伝統工芸事業の後継者育成・確保について

本事業の取り組みや成果がすぐに伝統工芸事業の後継者育成・確保に直結するわけではないが、本事業の取り組みを通じて、当該地域における伝統工芸事業の現状の課題等の認知から始まり、そこだけに留まることなく、根底にある魅力や価値が欧米豪をはじめとした外国籍の方にも共感されうるものであること、そして、それらをガイドという形で介在して関わっていききたいという方も複数名いらっしゃる、それらを商品とした時に旅行商品として十分に扱えるといった評価を旅行事業者からも得られているという事実が可視化できたことは、伝統工芸事業の後継者育成・確保という本質的な課題に取り組んでいくうえで、これまでになかった材料を得ることができたと考えられる。

伝統工芸に興味を持っていたとしても、経済面がネックになって、それ以上検討が進まなかった方や伝統工芸に関わることで欧米豪のインバウンド観光客が繋がることを想像したこともなかった方（これまでのアプローチ対象とは異なる層への訴求）はいらっしゃるはずなので、本事業で得られた成果を各地域の伝統工芸事業の保全・活性化等を取り扱っている行政部門や関係団体等に共有することで、まずは新たな伝統工芸との関わり方や可能性をしっかりと世の中に認知してもらう取り組みを行うことが本事業の成果を活用して頂くうえでは有効だと考えられる。

また、アンケートからも聞かれたように、本事業に関係して下さった方の中には、今回の経験をきっかけに、伝統工芸事業の後継者育成・確保に向けて継続して関わっていききたいと感じて下さっている方もいらっしゃるため、このような背景理解をして下さっている方の継続的な有効活用も肝要である。

<アンケートより抜粋(一部、表現等を精査)>

○担い手を確保・育成していく仕組み作り

- ・各組合等がある場合、地域内外の伝統工芸に関心のある者が趣味レベルだったものから複・副業レベルまで技術研鑽・習得できる場として機能する「道場システム」が確立されるよう働きかけたい。
- このような場にガイドも関与・交流していく形式がよいか。

◆ガイド人材の継続育成・確保について

取り扱う内容が伝統工芸であり、お客様も知的好奇心の高い方を相手にするため、背景理解や伝統工芸事業者との関係性作りが極めて重要となるため、単にガイド経験がある方を確保するだけでは成り立ちづらい側面がある。そのような状況下ではあったが、本事業でご協力頂いたガイドの皆様が丁寧に現場で伝統工芸事業者や事務局と複数回の勉強会を重ねて、当該地域の伝統工芸事業のガイドを行う際のアウトラインを作り上げて下さった。これらを軸としながら、現場でのOJT研修等も重ねていきながら、ガイド人材の着実な継続育成・確保の仕組みを構築できる土台は整いつつある。

ただその際に課題となるのが、これらのガイド育成を誰が、どの組織が今後はリードしていくのかということである。今後、販売ヘシフトいくことで、予約が入れば、既存のガイドの皆様に対応していただくことになるので、当面のガイド対応については問題がないと思われるが、継続育成や確保といった中長期的な視点に対応するためには、何かしらの組織体・会議体等が必要となるため、本事業でご協力を頂いたガイドの皆様にも継続してご協力を頂くような体制構築に向けた議論を早期に行うことが望ましいと考えられる。

<アンケートより抜粋(一部、表現等を精査)>

○横断的に対応できる人材育成

- ・スポット的なガイド人材も非常に重要だが、広い地域を横断的に対応可能なガイド人材が複数確保されることが望ましい。良質なガイドがいることでお客様へ安心を提供するとともに旅行の印象値や価値の向上に繋がる。

◆宿泊・飲食における外国籍者への対応について

宿泊・飲食におけるインバウンド対応は受け入れ強化をしていくうえでは必須事項になり、当該地域はこれらの対応が充実しているとは言い難い現状のため、早急に対応を強化すべき点であるとは考えられるが、過去の経験からこれらの対応が非常にストレスになっているといった地域の声も聞かれた。サステナブルの本質は、地域自体も無理なく対応できることにあることを鑑みると、丁寧な対応が必要だと考えられる(対応しない意思を尊重すること)。

ベジタリアンやハラル等の食制限者も非常に多様であり、最新の正しい認識を各事業者単体で身に着け、対応をしていくことは容易ではないため、専門家の協力を得ながら、まずは地域内で勉強会等からはじめ、具体的にどのような対応が必要か相談やアドバイスをもらえるような機会・環境を整えていくことが必要であると考えられる。

<アンケートより抜粋(一部、表現等を精査)>

○食制限への対応状況の見える化

- ・食事の候補場所に説明し、食制限者(ベジタリアンやハラル等)への料理を検証してもらう必要があるかもしれません。

<協力事業者の意見より抜粋(一部、表現等を精査)>

○各お店の意向の尊重

- ・ご協力を相談したお店の中には、食制限対応は自分たちが提供したいものをあるべき形で提供できないため、非常にストレスで、スタッフがそれをきっかけに辞めてしまったこともあるといった声も聞かれた。

◆二次交通の充実について

当該地域における二次交通の課題が大きいことは認識はしていたが、本事業内で本質的に解決できる課題ではなかったため、モニターツアーやファムトリップでは、既存の交通事業者におけるタクシーを利用することで、対応を行った。

検討会議でも発言があったが、交通インフラについて議論を行ううえでは、行政にも会議の場に出席頂くことで、より踏み込んだ議論ができる可能性があるとのことだったので、本事業の成果等を共有したうえで、議論を行うことが望ましいと考えられる。

<アンケートより抜粋(一部、表現等を精査)>

○前提としての地域間を連携する交通の整備

- ・本事業に限らず三地域の観光全体で飛騨高山-木曽-上伊那(国道 361 号)の広域急行バス便(Japan Rail Pass 使用可能が望ましい)が最低限の交通インフラとして必要。

○既存二次交通の使い勝手向上

- ・本事業に限らず滞在型コンテンツをご利用いただくために利用者側にフレックスタイプの交通パスの選択肢が必要(廃止された現状では滞在型観光に結びつかない)。
- ・二次交通の面では課題が山積した地域である。一方で現状の二次交通を効果的にPR する必要性も感じている。
—公共交通のタイムテーブルをわかりやすく提示することで既存の利便性も向上するか。

○タクシー以外の二次交通の選択肢

- ・特に伊那・南信州地域においては、コンテンツ/スポット間にタクシー以外の二次交通の選択肢が必要【e-bike 等が考えられるか?】。

○レンタカー利用の周知

- ・レンタカーをお客様に借りてもらい、それを利用しての移動はどうか【EVでない場合は環境配慮面での課題はあり】。お客様がレンタカーや自家用車でお越しただければ、ガイドもそこに乗り込んで対応できるはず。

◆天候リスクへの対応について

本事業で造成した伝統工芸の体験自体は、施設の中で行うため、雨や季節の影響を受けにくく、見方を変えれば、天候リスクの影響を受けやすい地域の自然体験プランを補完する位置づけとしても活用できるかもしれない。また、スルーガイドによる滞在型プランとして、1泊2日を最低単位とした建付けとなっているため、天候の様子を見ながら、ある程度柔軟にプラン構成も変更できる余地も併せもっている。

これらの特性を活かしつつも、本事業内では背景理解となる自然体験にあたる部分(天候リスクの影響が大きい行程の部分)は複数案の検討・造成までは十分にできていないため、まずは現状案をスタンダードとして、販売後の実施状況を見ながら、天候リスクにも対応できるプランの複線化を販売主体と検討できると望ましいと考えられる。

〈アンケートより抜粋(一部、表現等を精査)〉

○雨天時の代替案

- ・天竜峡散策、赤沢休養林散策、木曽福島市内散策、駒ヶ根光前寺散策などのバックアップを考えないといけません。これらの代替案に関しては、実際に機能するかどうかの検証も必要だと思います。

○厳冬期の想定

- ・木曽エリアは厳冬期が長く（12月～3月）標高の高い山など立ち入れない区域が多いので、宿場内での楽しみや冬期の別プランも検討したり、厳冬期ならではのイベントや景色、室内で楽しむコンテンツの検討が必要だと思います。

◆その他

〈アンケートより抜粋(一部、表現等を精査)〉

○言語対応の充実

- ・外国籍の方にも理解していただくための資料等が揃っていない。より理解いただくための資料の充実が求められる。
- ・観光地のマナー等の多言語案内も必要。

● 宿泊施設

	エリア名		Zenagi	木暮エリナ	Hostal 鶴見屋
施設概要/案内	始めたきっかけ、オーナーの思い、館のコンセプト等	長閑や道の駅の上にある民家を活用して、客を惹き立てていた会社が宿泊施設を開業したため。	日本人が日本の田舎に興味を持ってほしいという思いから始めた。	2021年8月に開業し、基本的にターゲットは日本人。	伝統工芸のものを買ってほしいという思いで、「ご来店いただく人へ使ってもらったものを無料利用する。昔ながらの茶室に暮らすこと、今に合わせた新しい方法をしていく。」
	宿泊者の傾向、口コミでの変化	・コロナ前は外国人旅行者の割合も多く、オーストラリアか来ている方が一番多かった。 ・booking.comからの予約が多い。	・海外からはファミリーが多い ・日本人は旅行用カプセル ・休みの人が多く予約が多い。	・前日本籍1人、現在日1国米7アジア9 ・海外のメディアにも多く掲載されており、InstagramやFacebookを見ても良質な滞在に引き込まれる。 ・ターゲットメタはほぼ全て日本人 ・この辺りに通達型の観光地になってしまっているのを残念に感じています。	・コロナ前は70%外国人、その内60%は欧米系で、中国系も増えてきているがまだ少ない。 ・booking.comからの予約が多い。 ・今は日本人と日本人が多く予約に来る。 ・「スタッフと客との距離感が近くなるだけではなく、お客さまと地元の人との交流まで目指している。」
	その他(顧客や当事業に対する期待・懸念点など)	—	—	旅館の作品を置いている。	・「ふらぬ職人のシニア層を増やしている。 ・お客さんが増えればそれだけ提供するところが可能。今はコロナの影響の中で穴あけ販売のところができるように」と思う。
	【認知/検討】	・館内展示に伝統工芸品を使用。またはここは可也。	観光客の増加など、伝統工芸品を展示販売することは可能。	館内に農産物や地元元のものを使っている。 ・道産子や道産品を出している。 ・土産や食糧品も関係性で、職人が作ったものを使用している。	旅館の作品を置いている。
コンテンツ 連携	・館内に伝統工芸品を販路する人材がいるか	いない	いない	職人さんの思いを伝えられるように勉強中。伝えていない	いない
	【案内/導入】	・体験コンテンツを販売しているか ・販売していないが、連絡取りを送客しているか ・地域情報・体験情報の紹介のみか	手配なし	自然アクティビティをメインに販売している	販売していないが接客をしている
	【言語】英語その他言語での説明資料があるか	身振り手振りやタブレットを使用	英語対応スタッフ	コンシェルジュレベルの英語対応はないが、日本語書留ができるスタッフ3人はいる。	英語対応スタッフ
	【食事】アレルギー・食文化に対する配慮があるか	ない(食事提供していない)	全て対応可	バリエーションは受け付けている。(経験上ではない)	実際に対応できるメニューがある
外国人受け入れ体制	【通信】通信環境が整っているか	wifi	wifi	wifi	wifi
	【衛生】生活しやすいサービスか	洋式	洋式	洋式	洋式
	【設備】空調/冷暖房は完備されているか	○(booking.com) ○(一休様)	○(無料送迎) ○(一休様)	○ ○(一休様)	○ ○
	【予約】ウェブでの予約が可能なか	可	可	可	可
アクセス	二次交遊網	直営/県(中央本線)	直営/県(中央本線)	直営/県(中央本線)	直営/県(中央本線)
	最寄り駅	新橋 - 塩浜 (特急あずさ 1日14本運行) →木暮福島 (特急ななつ星1日13本運行) 3h13min-8,550円 新橋 - 名古屋 (のぞみ 1h10分 ~ 12分) →木暮福島 (特急ななつ星1日13本運行) 3h20min-12,000円 → 14,000円 新宿 - 名古屋 (のぞみ 1h10分 ~ 12分) →木暮福島 (特急ななつ星1日13本運行) 3h16min-11,800円 池袋横浜線 → 近鉄名古屋 (アーバンライナー 1日17本) →木暮福島 (徒歩) 3h27min-4,600円 名古屋 → 木暮福島 (特急なしの1日13本運行) 5,200円 長野 → 木暮福島 (特急なしの1日13本運行) 3,840円 山梨温泉駅 から徒歩約 5分。 高尾バス。 新橋 JR中央線 → 木暮福島 4,300円 木暮福島 新橋 JR東横線から徒歩約 5分。	東京駅 → 名古屋 (新幹線) → 津川駅 (特急なしの 2h36min-11,000円) 新大塚駅 → 名古屋 (新幹線) → 中津川駅 (特急なしの 1h48min-7,370円) 名古屋駅 → 中津川駅 (特急なしの) 4.8 min-1,340円 → 南木暮町 (特急なしの) 1 h-1,600円 名古屋駅 → 木暮町 → 宿原駅、養馬場、養馬場と離れの湯沢駅(番寄り)駅立寄かホテルまで徒歩約5分(5min) (東京方面) 水郷入道 → 中津川IC(中央自動車道) → 津川(国道19号) 約4h (大阪方面) 大阪市内 → 小牧JCT(名神高速道路) → 津川IC(中道自動車道) → 赤井村(国道19号) 約3h20min 名古屋駅より名古屋市内 → 小牧JCT(名古屋高速) → 津川IC(中道自動車道) → ホテル(国道19号) 約1h30min	名古屋駅 → 津川駅 乗換 徒歩約 5分 津川 - 南木暮町 徒歩約 15分	
	交通機関の状況	—	—	—	—
		—	—	—	—

エリア名		南信州エリア		
施設名		Yamairo Gethouse	遠山邸ゲストハウス太陽堂	一棟貸しの古民家宿 濃と土と
施設概要/意向	始めたきっかけ、オーナーの思い、宿のコンセプト等	オーナーがゲストハウス開業に憧れ、東京のゲストハウスで働いた後、地元飯田で物件を借りて開業した。	—	2020年3月までビジネスホテルの支配人をしており、契約期間満了で実家の飯田に帰り、農家になろうと購入した家が大きな古民家だったため、副業で宿を行うこととした。
	宿泊者の傾向、コロナでの変化	・9割日本人、1割外国人。 ・外国人の方は飯田からバスに乗って妻籠馬籠宿まで行っている。	・99%日本人 ・過去に来た外国人は自然を楽しみに来る韓国人や露月祭りを目的として香港人。 ・OTA活用なし(自社メディアのみ)。	・コロナ禍での開業なので傾向はまだわからないが、予約は日本人のみ。
	その他(展望や当事業に対する期待/懸念点など)	—	—	—
コンテンツ連携	【認知/検討】	・館内装飾に伝統工芸品を使用、または置いているか ・館内に伝統工芸を説明する人材がいるか ・英語対応ができるスタッフがいるか	・置いていない。 ・地域で古民家から出てくる小道具や雑貨は館内で陶器市を実施している。	・この建物がこの辺りでは珍しい本様作りで、かつては数軒並んで営業を行っていた。館内の道具が館内にオブジェとして展示されている。飯田は大火で古民家がほとんど焼けてなくなってしまっている。この辺りも水害でほとんど潰され、本様作りは3〜4件しか残っていない。 ・開業する際にひさかた和紙の地域起こし協力隊の人と繋がった。結果市販の障子紙で館内の行燈等を飾っているが、もし連携できるならひさかた和紙を使ってもいいと思っている。
	【案内/手配】	・体験コンテンツを販売しているか ・販売はしていないが、連絡をとり送客しているか ・地域情報・体験情報の紹介のみか	地域情報・体験情報の紹介のみ	・体験体験を提供 ・自然アクティビティの紹介
	【言語】英語・その他言語での説明資料があるか 【食事】アレルギー・食文化に対する対応があるか 【通信】通信環境が整っているか 【衛生】お手洗いは洋式か 【請求】クレジット対応はできているか 【予約】ウェブでの予約が可能か	英語対応スタッフ なし wifi 洋式 〇 〇 ②	英語対応スタッフ —(食事提供していない) wifiあり 洋式のみ 現金のみ 〇(自社サイト) 〇(バスあり)	なし 食事提供なし wifi 洋式 〇 〇(AirBnB) △
アクセス	二次交通到達 最寄り駅	伊那八幡駅(飯田線)	平岡駅(飯田線)	天竜峡駅(飯田線)
	交通機関の状況	電車:JR飯田線 伊那八幡駅より徒歩4分	電車:新幹線・電車 各出発地から豊橋駅でJR飯田線に乗り換え、平岡駅で下車。直轄交通機関へバス・乗合タクシー・平岡線にて和田まで。和田のバス停から太陽堂までは徒歩5分。 高速バス 各出発地から飯田駅前で下車。市営バス遠山線に乗り換えて、和田のバス停まで。和田のバス停から太陽堂までは徒歩5分。飯田駅前から和田まではおよそ1時間半。 (バス平岡線)平日1本、土休日運休 (バス遠山線)平日4本、土休日2本	電車:天竜峡駅から徒歩15分 タクシーで5分

●施設環境

エリア名		木曽エリア		伊那エリア		飯島町
施設名		本郷村資料館	道の駅 木曽川原流の星きそむら	光華源造	伊那シルクミュージアム	飯島町
施設概要/意向	・コンセプト/ターゲット	日本人向け	木曽エリアに関心のある方	地元で愛されている地酒	伊那絹の歴史、シルクについて展示している。	・国内の歴史興味ある人、地元の方。 ・インバウンドは少ない。 ・コロナ前は年間数人は来っていた。
	・稼働状況(コロナ以前・現在)	・以前は月に数人程度は外国人の訪問があった。 ・現在はコロナの影響で日本人の団体客(食前・食中)のみ。 ・特別インバウンド向けなし	・コロナ前は中山道からの流れで外国人利用客も多かった。 ・現在は月3,000〜4,000人の来場者で、ほとんど日本人。 ・特別インバウンド向けなし	—	来場者の減少。 ・コロナ前までは外国人も来ていたが、コロナとなり減った。	—
	・インバウンド観光客の受入実績 有無	・無:意向/確認 (AGT/WEB等)及び反応	—	東京の会社が計画されたツアーで受け入れ実績あり。	東京の会社が計画されたツアーで受け入れ実績あり。	—
コンテンツ連携	・今後の展望/戦略	・観覧から50年、今はまず専門の係も学生も担当者がいないので、考えていく必要がある。	—	いいお酒を作ることが最優先	日本のシルク業界をリードしてきたエリアだったので、このことをきちんと残していきたい。	来場者を増やせばよい。
	・その他(当事業に対する期待/懸念点等)	・コロナ前は6月6日の夏祭りはやっていた。今も観光協会が実施している。	英語対応できる方がいない点。	スタッフは観光に反応しておらず、おもてなしができません。試飲の案内のみとなる。	—	インバウンド対応が通い付いていない。
	【認知/検討】	・館内装飾に伝統工芸品を使用、または置いているか ・館内に伝統工芸を説明する人材がいるか ・英語対応ができるスタッフがいるか	置いている。 観光協会の方が対応。県の建物で常駐。 従業員全員出来る。 いない。 飯原宿へ案内。	置いている。 — 英語対応スタッフ いない	— — — —	置いている。 対応可能。 —
外国人受入体制	【案内/手配】	・参考情報/地域情報として案内しているか ・体験コンテンツへの送客できるルート(連絡先)があるか	—	事前に伝えておけば、和田の案内も可能	パンフレットを渡す	パンフレットを渡す
	【言語】英語・その他言語での説明資料があるか	なし	なし	対応している。英語のみならず、中国語等多言語	多言語パンフレットあり	英語のチラシあり
	【食事】アレルギー・食文化に対する対応があるか	なし	wifi	なし	なし	なし
アクセス	【衛生】お手洗いは洋式か	お手洗いはなし	洋式	洋式、多目的トイレあり	洋式	洋式
	【請求】クレジット対応はできているか	現金のみ	〇	〇	なし	現金のみ
	【予約】ウェブでの予約が可能か	②	②	*	*	〇
アクセス	二次交通到達	飯原駅(中央本線)	飯原駅(中央本線)	伊那田島駅(飯田線)	駒ヶ根駅(飯田線)	飯島駅(飯田線)
	最寄り駅	飯原駅(中央本線)	飯原駅(中央本線)	伊那田島駅(飯田線)	駒ヶ根駅(飯田線)	飯島駅(飯田線)
	交通機関の状況	電車:公共交通:JR飯原駅→徒歩5分	電車:飯原駅から徒歩10分	電車:伊那田島駅 タクシー:伊那田島駅より11分	電車:駒ヶ根駅 タクシー:駒ヶ根駅より12分 高速バス 東京方面 新宿高尾バスターミナル→駒ヶ根 3h30min 名古屋方面 名鉄バスセンター→駒ヶ根 2h30min 大阪方面 阪急梅田駅→駒ヶ根 4h30min	電車:JR飯田線飯島駅より徒歩7分

● 移動環境

各エリアの二次交通

エリア	会社名	HP	即応性	利便性(言語対応)
木曽	おんたけタクシー(株)	—	木曽福島駅・上松駅	なし
	木曽交通(株)	—	木曽福島駅	なし
	(株)南木曽観光タクシー	https://kantaku.her.jp/wp/	南木曽駅	・言語対応できる職員 ・ポケット等を用意している
	やぶはらタクシー(株)	—	飯田駅	なし
上伊那	辰野タクシー(株)	http://tatsuno-taxi.com/	辰野駅	なし
	伊那タクシー(株)(貸車)	—	伊那市駅	なし
	伊那タクシー(株)(本社)	https://inataxi.com/	一(ヒアリングNG)	—
	(有)白川タクシー	http://www.valley.ne.jp/~greencab/	一(ヒアリングNG)	—
	伊南乗用自動車(有)	—	駒ヶ根駅	なし
	赤穂タクシー(有)	http://akaho-taxi.com/	駒ヶ根駅	なし
	セブン自動車(有)	—	飯田駅	なし
	宮田タクシー(有)	—	宮田駅	なし
南信州	北部タクシー(有)	https://hokubutaxi.jp/	元善光寺駅	なし
	丸茂自動車(有)	https://www.marumotaxi.com/	伊那松島駅	—(未回答)
	(有)天竜観光タクシー	—	飯田駅・平岡駅	なし
	朝日交通(株)	http://www.asahi-21.jp/	飯田駅・桜町駅	なし
	第一観光タクシー(株)	—	飯田駅	・喋れる人はいない ・ポケット
	南信州広域タクシー(有)	https://apple-cab.com/	飯田駅・切石駅、鼎駅、伊那市駅、駄科駅	なし
	(有)飯田タクシー	http://fidataxi.co.jp/	飯田駅	なし
	飯田風越タクシー(有)	—	飯田駅	なし

各地域間の交通

エリア	経路	アクセス方法	所要時間	片道運賃
木曽⇄伊那谷	木曽福島駅～塩尻駅～伊那市駅	電車	2時間10分程度	2430円
	木曽福島駅～伊那市駅	車	約45分	
伊那谷⇄南信州	駒ヶ根駅-駄科駅(JR飯田直通)	電車	1時間25分	860円
	駒ヶ根駅-駄科駅	車	約40分	
木曽⇄南信州	木曽福島-駄科駅	車	約1時間25分	
	3時間半以上所要・アクセス悪い	電車		

名古屋からの交通

高速バス路線	区間	乗車時間	会社名	電話番号	片道料金	本数(6/29時点)	言語対応	備考・コロナ
名古屋⇄真珠	中津川⇄伊那バスターミナル(伊那駅徒歩20分)	1時間42分	信南交通株式会社	0265-25-0007	1950円	9便	なし	便数は減っている。再開は未定
名古屋⇄真珠	馬籠⇄伊那バスターミナル(伊那駅徒歩20分)	1時間25分	信南交通株式会社	0265-25-0007	1750円	9便	なし	便数は減っている。再開は未定
名古屋⇄飯田	馬籠⇄飯田駅前	1時間6分	信南交通株式会社	0265-25-0007	1000円	5便	なし	便数は減っている。再開は未定
名古屋⇄真珠	伊那バスターミナル(伊那駅徒歩20分)⇄上飯田(飯田駅徒歩16分)	59分	信南交通株式会社	0265-25-0007	1200円	9便	なし	便数は減っている。再開は未定

● 人材環境

エリア名		木曽エリア		
ガイド候補者		おんたけ観光局スタッフ3名	古田大	カール・ニック
心構え/コミュニケーション	・積極的に案内/活用したいか(聞かれれば受け答えする程度か)	通訳もガイドも行う	本業としてやっていきたい。	積極的に案内したい
言語レベル	・言語レベルはどの程度か	英語のみ	全国通訳案内士(英語)	ネイティブ
過去経験	・ガイド経験(有料/無料)があるか	あり。 2019年は10回程度。	ガイドを始めたのは2019年で、全国通訳案内士の資格をとったのは2020年。その前は個人ガイドでそば打ち職人の通訳などをやっていた。	ガイドはないが、観光客向けの説明は作ったことはあり、観光には興味がある。
	・どのようなツアーのガイドングか	・馬籠～妻籠の間 ・妻籠以内 ・関所資料館、代官跡(半日)	そば打ち体験の通訳	
エリア名		南信州エリア		伊那エリア
ガイド候補者		元高森町の外国人スタッフ(ノエミグランド)	平谷村地域おこし協力隊 マイケル・キング	平沢健太郎
心構え/コミュニケーション	・積極的に案内/活用したいか(聞かれれば受け答えする程度か)	通訳・ガイド両方可	積極的に案内したい	積極的に案内したい
言語レベル	・言語レベルはどの程度か	英語 日本語は簡単な会話であればOK。	ネイティブ	全国通訳案内士(英語)
過去経験	・ガイド経験(有料/無料)があるか	2021年にオンラインワークショップで塩沢工芸店との組子細工のワークショップがあり、その際にガイド業通訳の経験あり	・2010年から屋久島でガイドを1年間 ・東京で富士山のガイド ・その後、独立して箱根の山、神奈川の山のガイド	長野県内のガイド
	・どのようなツアーのガイドングか	オンライン伝統工芸実演ワークショップ	屋久島、山のガイド	長野県内のガイド

2) 別添資料②タリフ【英語版】(上伊那/木曽/南信州)

Experience the Excellence of Japanese Silk: Handwoven Ina Tsumugi		Nagano/Kamiina													
		Price Information - Price (tax included) - Apply for 1 person 36,800JPY - Apply for 2 people 19,700JPY - Apply for 3 people 14,000JPY - Apply for 4 people 11,150JPY - Option/Price (excl. tax) - Included - Guide fee, Experience fee, Meals (Lunch) - Excluded - Accommodation and local transportation fee *Consultation on accommodation and local transportation arrangements are also available.													
		Language - Available language support ☒ Japanese English ☐ Chinese ☐ Other - Assistant service ☒ Yes ☐ No - Foreign language guide and other guide related information - Language support tool													
HIGHLIGHT - Wear Ina Tsumugi, which is of good quality and feels good on the skin. - Listen to your exclusive guide tell the story of the raw material silk, and why Ina Tsumugi developed. - Interact with the craftsmen of Ina Tsumugi, who are still handweaving each piece. - We will guide you to the Kubota Textile Industry, the only company that protects Ina Tsumugi.		Operations - Operation period/Frequency - Monday, Tuesday, Thursday, Friday - Duration・Start time 9:00~, 7 hours - Number of participants(Max/Min) 1-4 persons *If there are more than 3 people, the itinerary may be changed due to dressing time. Please contact us for details.													
Local Assets/Sustainable Elements In the land of Ina Valley, instead of growing rice, the sericulture industry developed. They made high quality silk and exported it. Ina Tsumugi is woven using unsuccessful silkworms that cannot be sold. Although it is said to be a poorly made silkworm, it is a high quality product that has a good texture. Because it is all handwoven, it cannot be mass produced, and it is still being woven even though there are problems such as a lack of successors.		ACCESS  Meeting point: JR Komagane Station 1 Higashimachi, Komagane-shi, Nagano Access: About 1.5 hours from JR Shinjuku Station or about 4 hours by bus from Shinjuku Station													
Category ☒ Tradition ☐ Cuisine ☐ City ☐ Nature ☐ Art ☐ Relaxation ☐ Outdoor															
DETAILS After learning about silk, which is the material used for Ina Tsumugi, you will walk around wearing Ina Tsumugi. Afterwards, at Kubota Textile Dyeing Industry, which is currently the only manufacturer of Ina Tsumugi, you will observe the process of making Ina Tsumugi and experience Ina Tsumugi weaving. You can interact with the craftsmen who are handcrafting each item with care.															
SCHEDULE [09:00] Gather & move [09:30] Get dressed Kimono [10:00] Learn about the history of silk in the Komagane area at the Komagane Silk Museum [11:15] Stroll around in kimono [12:15] Kimono return [13:15] Lunch (buffet at the restaurant in the Silk Museum) [13:30] move [14:00] Kubota Textile Dyeing Industry: Observation of Ina Tsumugi manufacturing process and weaving [15:00] Interact with craftsmen while drinking tea [16:00] Dismissal at JR Komagane Station Participation requirements If you are over 180cm, you will not be able to participate as there is no kimono for that size available. Meeting Point & Address Meeting point : JR Komagane Station 1 Higashimachi, Komagane-shi, Nagano CANCELLATION POLICY 20 to 8 days before the departure date of the tour 20% 7 to 2 days before the departure date of the tour 30% The day before the departure date of the tour 40% On the day of the departure date of the tour 50% After the tour departed, No show 100% Remarks ◆Komagane Silk Museum Depending on the number of participants, the time for putting on the kimono may change. Please let us know your height, body shape, and preferences at the time of booking. ◆Kubota Textile Dyeing Industry Please do not talk to the staff who are weaving as we will observe the actual work. Also, please ask the guide when taking pictures. Local transportation expenses are to be paid on-site. Preparation for emergency (no show, adverse weather, late arrivals etc.) In case of typhoon or heavy rain, the tour cannot be operated. (Operates in light rain) We will contact you by phone by the day before the experience.															
Insurance support ☐ Yes ☒ No Booking deadline day before 2 weeks Stock control ☐ Yes ☒ No Operation hours 10:00~17:00 Contact (organisation name/PIC) attractive-j@chibra.co.jp (Regional Branding Institute Co., Ltd.)															
Facility Information <table border="0"> <tr> <td>WiFi ☐ Yes ☒ No</td> <td>web booking ☒ Yes ☐ No</td> </tr> <tr> <td>Credit card payment ☐ Yes ☒ No</td> <td>Toilet ☒ Western-style ☐ Japanese-style ☐ No</td> </tr> <tr> <td>earthquake-proof equipment ☐ Yes ☒ No</td> <td>emergency food ☐ Yes ☒ No</td> </tr> <tr> <td>Lifesaving course licence holder ☐ Yes ☒ No</td> <td>fire extinguishing equipment ☒ Yes ☐ No</td> </tr> <tr> <td>disaster prevention manual ☐ Yes ☒ No</td> <td>emergency butterfly ☐ Yes ☒ No</td> </tr> <tr> <td>evacuation map ☐ Yes ☒ No</td> <td>accessibility ☐ Yes ☒ No</td> </tr> </table> Website https://attractive-j.com/experiences/PWHOLD dietary support				WiFi ☐ Yes ☒ No	web booking ☒ Yes ☐ No	Credit card payment ☐ Yes ☒ No	Toilet ☒ Western-style ☐ Japanese-style ☐ No	earthquake-proof equipment ☐ Yes ☒ No	emergency food ☐ Yes ☒ No	Lifesaving course licence holder ☐ Yes ☒ No	fire extinguishing equipment ☒ Yes ☐ No	disaster prevention manual ☐ Yes ☒ No	emergency butterfly ☐ Yes ☒ No	evacuation map ☐ Yes ☒ No	accessibility ☐ Yes ☒ No
WiFi ☐ Yes ☒ No	web booking ☒ Yes ☐ No														
Credit card payment ☐ Yes ☒ No	Toilet ☒ Western-style ☐ Japanese-style ☐ No														
earthquake-proof equipment ☐ Yes ☒ No	emergency food ☐ Yes ☒ No														
Lifesaving course licence holder ☐ Yes ☒ No	fire extinguishing equipment ☒ Yes ☐ No														
disaster prevention manual ☐ Yes ☒ No	emergency butterfly ☐ Yes ☒ No														
evacuation map ☐ Yes ☒ No	accessibility ☐ Yes ☒ No														
Area Information tourist attractions, places of interest & accommodation in the area. Other programmes to be combined with this															



HIGHLIGHT

- Get a real sense of the wonders of craftsmanship by seeing the meticulous and careful craftsmanship up close. Take one of these treasured crafts home with you.
- Through interaction with craftsmen, hear their thoughts on the combs.
- The Orokugushi comb is a traditional craft that local people try to protect despite a shortage of successors.

Local Assets/Sustainable Elements

In Kiso, where people frequently traveled through thanks to the Nakasendo trail, high-quality trees such as cypress grow. The locals have used these trees to make and sell products created from wood.

One of these crafts is called the Orokugushi comb and is still made one by one by craftsmen today. The tools are handmade to suit each craftsman as well. These carefully made combs effectively remove dirt from the hair, stimulate the scalp, and improve blood circulation. Experience craftsmanship while walking along the Nakasendo, where you can feel the atmosphere of old Japan.

Category

☒ Tradition ☐ Cuisine ☐ City ☐ Nature ☐ Art ☐ Relaxation ☐ Outdoor

Price Information

- Price (tax included)
Apply for 2 people 25,050JPY
Apply for 3 people 27,850JPY
Apply for 4 people 24,300JPY
Apply for 5 people 22,100JPY
- Option/Price (excl. tax)
- Included
Guide fee, Experience fee (Orokugushi comb attached), Meals (Lunch)
- Excluded
Local transportation fee

Language

- Available language support
☒ Japanese ☐ English ☐ Chinese ☐ Other ()
- Assistant service
☒ Yes ☐ No
- Foreign language guide and other guide related information
- Language support tool

Operations

- Operation period/Frequency
Except Mondays, Wednesdays and year-end and New Year holidays (12/29 - 1/3)
- Duration • Start time
9:15~, 5 hours
- Number of participants (Max/Min)
2~5 pax

ACCESS



Meeting point: JR Yabuhara Station
Yabuhara, Kisomura, Kisogun, Nagano 3996201
Access:
About 30 minutes by train from JR Shiojiri Station

DETAILS

After learning about the history and the Orokugushi comb at the Kiso Village Folk Museum, watch a craftsmanship demonstration. By experiencing part of the craftsman's work, feel the splendor of craftsmanship. After the experience, there is time to interact with the craftsmen while drinking tea so you can listen to the story of how they have continued to make traditional crafts and their commitment and life.

SCHEDULE

[09:15] Meet at Yabuhara Station → Move on foot →
[09:30] Kiso Village Folk Museum: Introduction to the history of Kiso Village and the Orokugushi comb
[10:30] Observe a craftsman's demonstration and hand sawing
[11:30] Tea time with craftsmen
[12:00] Stroll around Yabu Harajuku
[13:00] Oginoya: Soba lunch
→ Move on foot →
[14:15] Dissolution at Yabuhara Station

Other Information

- Participation requirements
For safety reasons, children under the age of 12 are not permitted to participate.
- Meeting Point & Address
Meeting point: JR Yabuhara Station
Yabuhara, Kisomura, Kisogun, Nagano 3996201
- CANCELLATION POLICY
7 to 4 days before the tour date: 40% of the tour price
3 to 2 days before the tour date: 60% of the tour price
The day before the tour date, on the day of the tour: 100% of the tour price
- Remarks
Please note that Orokugushi combs are only available for right-handed people.
- Preparation for emergency (no show, adverse weather, late arrivals etc.)
In case of typhoon or heavy rain, the tour cannot be operated. (Operates in light rain)
We will contact you by phone by the day before the experience.

Insurance support

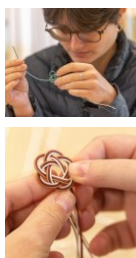
- Stock control ☐ Yes ☒ No
- Booking deadline day before 5 days
- Operation hours 8:30~17:30
- Contact (organisation name/PIG)
info@visitkiso.com (Kiso Ontake Tourist Organization)

Facility Information

- Wi-Fi ☐ Yes ☒ No
- web booking ☒ Yes ☐ No ()
- Credit card payment ☐ Yes ☒ No ()
- Toilet ☒ Western-style ☐ Japanese style ☐ No
- earthquakeproof equipment ☐ Yes ☒ No
- emergency food ☐ Yes ☒ No
- Lifesaving course licence holder ☐ Yes ☒ No
- fire extinguishing equipment ☒ Yes ☐ No
- disaster prevention manual ☐ Yes ☒ No
- emergency buttry ☐ Yes ☒ No
- evacuation map ☐ Yes ☒ No
- accessibility ☐ Yes ☒ No
- Website
<https://attractivej.com/experiences/PTL1ER>
- dietary support
Please inform us of any allergies, etc. at the time of reservation.

Area Information

- tourist attractions, places of interest & accommodation in the area.
- Other programmes to be combined with this



HIGHLIGHT

- Experience two traditional crafts that connect stories.
- An exclusive guide will take you to each craftsman.
- Send a letter with the washi paper you make.

Local Assets/Sustainable Elements

The Tenryu River flows through the Minami Shinshu (Iida) area, and from this abundant water resource, Japanese **washiki** (papermaking) developed. Motoyui was made from strong and **high quality** Japanese paper to tie up samurai's hair. Further developed from this, mizuhiki is considered auspicious. Each craftsman continues to make Japanese paper and mizuhiki.

Category

☒ Tradition ☐ Cuisine ☐ City ☐ Nature ☐ Art ☐ Relaxation ☐ Outdoor

DETAILS

After seeing the kozo tree, which is used to make Japanese paper, experience making Japanese paper. Make your own original postcard. * Contents may change depending on the season
After the Japanese paper making experience, you will make mizuhiki. Please also pay attention to the story of Japanese paper and mizuhiki.

SCHEDULE

[08:30] Gather & move
[08:45] Shimokuken Community Center: Observe the raw materials and harvesting at Kozo field
[09:30] ★Japanese Papermaking Experience: After making a postcard, interact with the craftsmen while drinking tea
[10:50] ★Mizuhiki Experience: After observing the craftsman's demonstration, make one yourself
[12:30] Goheimochi lunch at Imamiya Hanpei
[13:45] Move & finish

Other Information

■Participation requirements

■Meeting Point & Address
Meeting point: JR Iida Station
5356 Kamilida, Iidashi, Nagano, 3392566

■CANCELLATION POLICY
20 to 8 days before the departure date of the tou20%
7 to 2 days before the departure date of the tou80%
The day before the departure date of the tou40%
On the day of the departure date of the tou50%
After the tour departed, No show100%

■Remarks

■Preparation for emergency (no show, adverse weather, late arrivals etc.)
In case of typhoon or heavy rain, the tour cannot be operated. (Operates in light rain)
We will contact you by phone by the day before the experience.

Price Information

- Price (tax included)
Apply for 2 people 55,050JPY
Apply for 3 people 41,400JPY
Apply for 4 people 34,550JPY
- Option/Price (excl. tax)
- Included
Guide fee, Experience fee, Local transportation fee, Meals (Lunch)
- Excluded

Language

- Available language support
☒ Japanese ☐ English ☐ Chinese ☐ Other ()
- Assistant service
☒ Yes ☐ No
- Foreign language guide and other guide related information
- Language support tool

Operations

- Operation period/Frequency
Monday, Tuesday, Thursday, Friday
- Duration・Start time
8:30~, 5 hours 15 minutes
- Number of participants(Max/Min)
2-10people *Please ask if you join more than 5people.

ACCESS



Meeting point: JR Iida Station
5356 Kamilida, Iidashi, Nagano, 3392566
Access:
About 3 hours by bus from Nagoya Station

Insurance support

- Stock control ☐ Yes ☒ No
- Booking deadline day
before 2 weeks
- Operation hours
8:30~17:30
- Contact (organisation name/PIC)
oyorte@msb.jp (Minami Shinshu Kanko Khosha Cb.)

Facility Information

- Wi-Fi ☒ Yes ☐ No
- web booking ☒ Yes ☐ No ()
- Credit card payment ☐ Yes ☒ No ()
- Toilet ☒ Western-style ☐ Japanese style ☐ No
- earthquakeproof equipment ☐ Yes ☒ No
- emergency food ☐ Yes ☒ No
- Lifesaving course licence holder ☐ Yes ☒ No
- fire extinguishing equipment ☒ Yes ☐ No
- disaster prevention manual ☒ Yes ☐ No
- emergency buttry ☐ Yes ☒ No
- evacuation map ☒ Yes ☐ No
- accessibility ☐ Yes ☒ No
- Website
<https://attractivej.com/experiences/PNWTJQ>
- dietary support
Please inform us of any allergies, etc. at the time of reservation.

Area Information

- tourist attractions, places of interest & accommodation in the area.
- Other programmes to be combined with this



（タイトル）

110 年以上引き継がれてきた技術と自然の風物を活かした色彩。「伊那紬」が紡ぐ伝統文化。

翻訳文

Colors made by Techniques have been continued over 110 years and Natural Elements.
Traditional Culture Spun by Ina Tsumugi.

（リード文）

通称「姫街道」とも呼ばれる長野県旧中山道の近くにある上伊那地域。このエリアは、農家の手仕事から生まれた数多くの伝統工芸が受け継がれています。その中で、今回は上伊那地域の「伊那紬」をご紹介します。

翻訳文

In the area around the old Nakasendo path in Nagano Prefecture, also known as “Hime Kaido”. There are many traditional crafts, which is born from the handiwork of farmers, have been continued. Among them, this time we will introduce *Ina tsumugi* from the Kamiina region.

（本文）

女性たちが家族のために織った反物から始まった伊那紬の歴史・文化。

長野県の南部に位置し、東西を南アルプス、中央アルプスに囲まれた伊那谷。寒さの厳しい信州の中でも、比較的温暖な気候に恵まれているこの地は、県内随一の桑の生産量を誇ります。そのような背景もあり、「蚕の国、絹の国」として養蚕、製糸業が栄えていきました。

翻訳文

The history and culture of Ina tsumugi began with the cloth woven by women for their families.

Located in the southern part of Nagano Prefecture, the Ina Valley is surrounded by the Southern Alps to the east and the Central Alps to the west. Even in Nagano, where the cold is severe, this area is blessed with a relatively mild climate and boasts the largest amount of mulberry production in the prefecture. Thanks to this, the sericulture and silk industry prospered and the area became known as "the country of silkworms, the country of silk".



伊那谷の養蚕・製糸業が花開ききっかけとなったのは、江戸時代のこと。信州の各藩が養蚕業を奨励したことで、農家の副業として繭玉や絹織物の生産が盛んになります。ただ、良質な繭は、京都や名古屋などの都市圏に出荷される一方で、蚕が繭を破って穴が開いてしまったものは不良品になるため市場に流通させることができません。そこで、女性たちが不良品となった繭を使い、家族のために、手織りばたで一本一本丹念に織り、反物をつくりました。それが伊那紬のはじまりであると言われています。

翻訳文

It was during the Edo period that the sericulture and silk industry in the Ina Valley began to flourish. As each domain in Nagano encouraged sericulture, the production of silkworm cocoons and silk fabrics flourished as a side business for farmers.

However, while high-quality cocoons are shipped to metropolitan areas such as Kyoto and Nagoya,

cocoons with holes are considered defective and cannot be distributed to the market. Therefore, the local women used the defective cocoons and carefully wove them by hand to make rolls of cloth for their families. It is said that this is the beginning of Ina tsumugi.



また、南アルプスや中央アルプスの麓に囲まれた自然豊かな土地であることを活かし、自生している樹木や植物を天然の染料とする草木染めの技術が発展。やまざくらやカラマツなどの天然素材を使った染色がなされるようになりました。

翻訳文

Additionally, by taking advantage of the area's abundant nature surrounding the foothills of the Southern Alps and the Central Alps, locals developed vegetable dyeing techniques, which uses naturally occurring trees and plants, such as yamazakura and larch, as dyes.





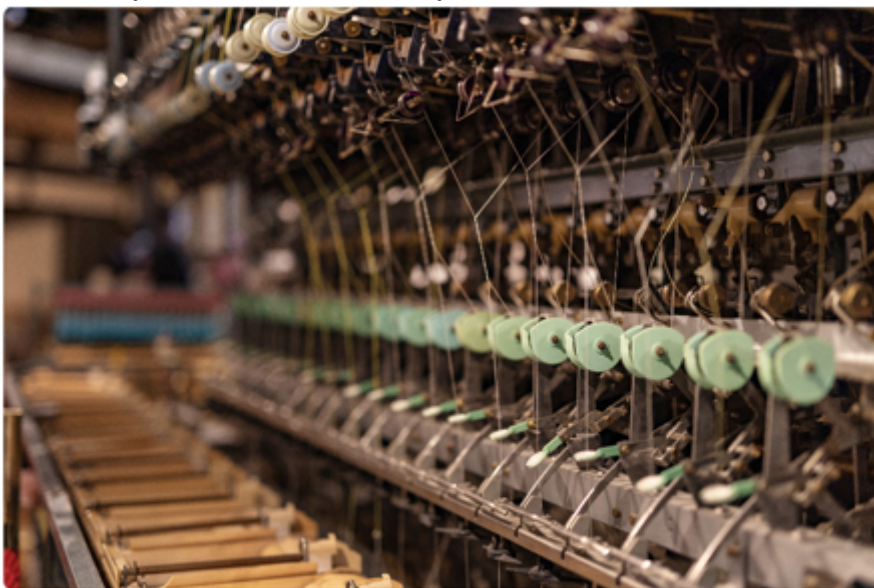
伊那紬の伝統を引き継ぐ唯一の織元・久保田織染工業

最盛期には、120 軒以上の工場があったという伊那紬。しかし、現在まで残っている織元は 1 軒となっています。それが 1910 年創業の老舗「久保田織染工業」です。

翻訳文

Kubota Textile Industry Co., Ltd, the Only Textile Manufacturer that has Inherited the Tradition of Ina Tsumugi

At its peak, Ina tsumugi was produced in more than 120 factories. However, only one weaver remains today – Kubota Textile Industry Co., Ltd, founded in 1910.



久保田織染工業では、糸作りから、染め、織りの工程まで一貫して製造しています。ひとつひとつ人の手で作り、染め、織られているため、似た色柄でも少しずつ風合いが異なるのが特徴です。土地に根付く自然の風物と 100 年以上受け継がれてきた技術。そこから生み出される絹織物は、やわらかな肌触りとふわりとした風合い、滋味溢れる色彩を纏う、唯一無二のアイテムとなります。

翻訳文

Kubota Textile Industry Co., Ltd. has an integrated manufacturing process from thread making to dyeing and weaving. Because each piece is made, dyed, and woven by hand, even similar colors and patterns have slightly different textures.

Natural features rooted in the land and technology have been handed down for over 100 years. The silk fabrics produced from this process are one-of-a-kind items that are soft to the touch, have a fluffy texture, and are clad tasteful colors.





今回は、専務取締役の久保田貴之さん、久保田織染工業 3 代目代表の久保田治秀さんにお話をお聞きました。

翻訳文

伊那紬の伝統を担ってきた 3 代目と、未来を創る 4 代目。

まずお話をお聞きしたのは、久保田貴之さん。

小さい頃の原風景から仕事の醍醐味、伊那紬の未来についてお話してくれました。

翻訳文

This time, we interviewed Mr. Takayuki Kubota, senior managing director, and Mr. Haruhide Kubota, the third generation representative of Kubota Textile Industry Co., Ltd.

The third generation has carried on the tradition of Ina tsumugi, and the fourth generation will create its future.

We talked to Mr. Takayuki Kubota first.

He talked about the future of Ina tsumugi, from the scenery of his childhood to the real pleasure of his work.



——幼い頃、伊那紬という家業について、どのような思い出がありますか？

貴之さん：

幼い頃は、よく工場で遊んでいましたね。「機械が回る音ってこんなに大きいんだ」と思ったり、機織りをしているおばさんに「走り回っちゃダメだよ」って怒られたり、そうかと思えばあめ玉をもらったり。さまざまな思い出があります。

——どうして家業を継ごうと思ったのですか？

貴之さん：

実は、それほど強い決意を持って「継ごう！」と考えていたわけではないんですよ。3代目の父も「継いでくれ」とは言いませんでした。しかし、東京に出てサービス業で働く中で、家業のことが気になり始めて。しばらく働いたあとリターンして、自然な流れで継ぐことになったんです。

——3代目でもある社長について、貴之さんにはどのように映っているのでしょうか。

貴之さん：

もちろん尊敬している部分はたくさんあります。たとえば、「やりたい」と思ったことは、そのまま突き進んで実現してしまうところ。斬新なアイデアを出したり、新しい取り組みにも積極的に挑戦したり。最近では秋冬物を中心とした展開をしている紬織物の中で、薄地の夏物製品を作ろうとチャレンジしています。そういった姿勢は、自分も見習いたいと思いますね。

翻訳文

——When you were young, what kind of memories do you have about your family business, Ina Tsumugi?

Mr. Takayuki:

When I was little, I used to play in the factory a lot. I remember thinking that the machines were very loud and I remember being scolded by the old weaving lady, saying, “Don’t run around!” Then,

on the other hand, I sometimes received candy balls. I have many memories there.

——Why did you decide to take over your family business?

Mr. Takayuki:

Actually, I didn't have such a strong determination to take over the business. Even my father, the third generation, never asked me to take over. However, when I moved to Tokyo and worked in the service industry, I began to worry about the family business. After working for a while, I made a U-turn and eventually took over.

——How do you view the third generation president?

Mr. Takayuki:

Of course, there are many things that I admire. For example, when he thought of an idea he wanted to try, he would move forward and make it happen. He came up with innovative ideas and actively took on new challenges. Among the fabrics that have recently been developed mainly for autumn and winter, I am trying to create thin summer products. I would like to emulate his can-do attitude.



——現在、貴之さん自身は、どのような仕事をされているのでしょうか？

貴之さん：

久保田織染工業は、分業制。縦糸を作る「整経」や織機で布を織る「機織り」などさまざまな職人がいます。その中でも、私は糸を作ったり、染めたりといった工程を担当しています。また、営業として、お客さんや問屋さんと商談して注文を取り付ける営業活動も私の仕事です。大変なこともあります。が、気心の知れた仲間たちと一緒にものづくりをしたり、糸をどんな色に染めていこうか考えたりする作業はとても楽しいですね。販売会などの場では、そうやって自分たちが丹精込めてつくった着物を着て来場してくださる方もいます。そんな姿を見ると、とても嬉しくなりますね。

翻訳文

——Takayuki-san, what kind of work are you doing now?

Mr. Takayuki:

Kubota Textile Industry Co., Ltd. has a division of labor system. There are various craftsmen such as those who make warp threads and those who weave cloth with a loom. Among them, I am in charge of processes such as making threads and dyeing. Also, I work as a salesman; my job is to engage in business negotiations with customers and wholesalers to obtain orders.

Although it can be difficult at times, it is a lot of fun to create things with friends I know well and think about what colors to dye the thread. At sales events and other occasions, some people wear kimonos that they have made with great care. Seeing customers like that makes me very happy.

——伊那紬のこれからについて教えてください。

貴之さん:

日本では戦後から徐々に着物業界は衰退していきました。今では小さな産業ですし、洋服の方が日常生活を送る上ではたしかに便利です。これからかつてほどの一大産業に戻ることも恐らくないでしょう。かといって、この伝統を途絶えさせてはいけないと思うんです。

毎日着物を着てほしいとは思いません。でも、特別な日やイベントの機会に着たりすることで着物の魅力を味わってほしい。もちろん、私たちの工場を訪れてくれるのも大歓迎です。実際に絹織物ができる工程を見て、知って、楽しんで、驚いてもらう。そうすることで、少しでも伊那紬を記憶に残してもらいたいと思いますね。

翻訳文

——Please tell us about the future of Ina tsumugi.

Mr. Takayuki:

In Japan, the kimono industry gradually declined after the war. It's a small industry now, and western styled clothes are certainly more convenient for everyday life. It will probably never return to the big industry it once was. However, I don't think we should let this tradition end. I don't want people to wear a kimono every day, but I want them to enjoy the charm of kimono by wearing it for special occasions and events. Of course, everyone is also very welcome to visit our factory. See, learn about, enjoy, and be amazed at the process of actually making silk fabrics, and remember as much about Ina tsumugi as possible.



続いてお話を聞きしたのは、久保田織染工業 3 代目の代表久保田治秀さん。伊那紬の「これまで」と「これから」について語ってくれました。

Next, we interviewed Mr. Haruhide Kubota, the third generation representative of Kubota Textile Industry Co., Ltd. He talked about Ina tsumugi's past and future.



——治秀さんは、いつから伊那紬に携わっているのですか？

治秀さん：
1970 年から伊那紬に携わっています。当時は、私の父が祖父からこの家業を引き継いだタイミングでしたね。

――これまでの伊那紬の歴史を振り返ってどのようなことを思いますか？

治秀さん：

「伝統文化を引き継ぐ」と言うと、ずっと同じ内容の仕事をしているようなイメージがあるかもしれませんが、でも、私たちは時代に合わせて変えるべきところは変えてきました。「絹織物をつくる」というこだわりは守りつつも、作り方や染め方の試行錯誤、新製品の開発など常にチャレンジしてきたからこそ、110 年以上歴史が途絶えなかったのだと思っています。

――息子の貴之さんも家業に戻ってきました。そのことについては、どのように感じていますか？

治秀さん：

大変ありがたいことだと思います。これから 10 年、20 年先のことを構想するとき、私よりも若い人が考えた方がいいところもあるはず。その点では、息子に大きな期待をしています。私自身は、息子が自分の考え方を大切に伊那紬を発展させられるようにサポートしていきたいと思いますね。

翻訳文

――Mr. Haruhide, since when have you been working with Ina tsumugi?

Mr. Haruhide:

I have been involved with Ina tsumugi since 1970. At that time, my father took over the family business from my grandfather.

――Looking back on the history of Ina tsumugi, what do you think of it?

Mr. Haruhide:

When you hear the phrase “passing on traditional culture,” you may have the image of doing the same work for a long time. However, we have updated the things that should be changed according to the times. While maintaining our commitment to making silk fabrics, we have always challenged ourselves with trial and error in manufacturing and dyeing methods and developing new products.

――Your son, Mr. Takayuki, has also returned to the family business. How do you feel about that?

Mr. Haruhide:

I am very grateful. When thinking about the next 10 or 20 years from now, there must be things that younger people should think about. I have high hopes for my son in that respect. I myself would like to support my son so that he can develop Ina tsumugi while valuing his own way of thinking and ideas.



——最後に、着物の魅力はどんなところにあると思いますか？

治秀さん：

着物は、女性の美しさを一番引き出し、男性の格好良さを際立たせる服だと思っています。洋服に比べて高価なものでもあるため、着られる場面は限られるかもしれませんが、特別な日などにぜひ着物に触れてみてほしいと思いますね。

翻訳文

——Lastly, what do you think is the charm of kimono?

Mr. Haruhide:

I believe that the kimono is the kind of clothing that best brings out the beauty in women and emphasizes the charm of men. Since it is more expensive than Western clothes, the occasions in which you can wear it may be limited, but we would like you to try wearing them on special occasions.



まとめ

伊那谷で110年以上続いている伝統工芸・伊那紬。

その繊細な手仕事と着物の美しさに触れてみたい方は、一度訪れてみてはいかがでしょうか。

翻訳文

Summary

Ina tsumugi is a traditional craft that has continued in Ina Valley for over 110 years.

Come and visit to experience the delicate handwork and the beauty of the kimono.



(タイトル)

地域の“伝説”から生まれた工芸品を大切に守る。「お六櫛」が紡ぐ伝統文化。

翻訳文

Protected Craft Born From Local Legend. The Traditional Culture Rooted in the Orokugushi Comb.

(リード文)

通称「姫街道」とも呼ばれる長野県旧中山道周辺。このエリアは、山と宿場で生活する人々の手仕事から生まれた数多くの伝統工芸が受け継がれています。その中で、今回は木祖地域の「お六櫛」をご紹介します。

翻訳文

In the area around the old Nakasendo in Nagano Prefecture, also known as Hime Kaido, many traditional crafts born from the handiwork of farmers have been handed down. Among them is the Orokugushi comb from the Kiso area.

(本文)

豊かな森林資源に恵まれた地で育まれた木工品の歴史・文化

長野県の南西部に位置する木曽地域。豊かな森林資源に恵まれたこの地では、木が人々の生活に密接に関わってきました。

翻訳文

The history and culture of wood crafts nurtured in a land blessed with rich forest resources.

The Kiso region is located in the southwestern part of Nagano Prefecture. Trees have been an essential part of people's lives in this land blessed with abundant forest resources.



江戸時代の木曽山は江戸幕府尾張藩の林政改革により「木曽五木」に代表される有用樹が厳しく保護されていました。そのような厳しい掟の中でも、この地域に暮らす人々は里山を有効に活用しながら生活に役立てていたといえます。

そして、守られ、愛されてきた木曽の山は、伊勢神宮のご神木としても重用されるほどの良質な木が自然なかたちで生い茂る、日本屈指の森林となっていました。

また、中山道沿いの宿場町であったため、さまざまな人が往来し、木材を利用した伝統工芸も発達したと考えられています。

その中でも、今回取り上げるのは約 300 年前の江戸時代から始まったと言われる名産品「お六櫛」です。

翻訳文

During the Edo period, useful trees represented by the “Five Trees of Kiso” were strictly protected due to the forestry reforms of the Owari clan of the Edo Shogunate. Even under such strict rules, the people living in this area are said to have made effective use of the satoyama in their daily lives.

The mountains of Kiso, which have been protected and loved, have become one of the best forests

in Japan, with high-quality trees that are used as sacred trees at Ise Jingu Shrine.

In addition, because it was a post town along the Nakasendo, various people passed through. Traditional wood crafts are thought to have developed as a result of this.

Among them, this time we are focusing on the Orokugushi comb which is said to have first been created about 300 years ago during the Edo period.



とある“伝説”を機に全国に広がった伝統工芸・お六櫛

翻訳文

The Orokugushi comb, a traditional craft that spread all over Japan because of a legend.

「お六櫛」という名前は、江戸時代から伝わりとある伝説にちなんで付けられました。ここではその伝説をご紹介します。

「かつて“お六”と呼ばれる娘が頭痛に悩まされていました。ある日御嶽大明神に頭痛の治癒を願ってお参りしたところ、『ミネバリの木で櫛を作って髪を梳かせば治る』とのお告げを得ます。早速試してみると、嘘のように長年悩まされていた頭痛が治ったのです。そこで、同じように頭痛に悩む人々のために櫛を作り、街道を行き交う旅人にお土産品として提供するように。そこから各地で評判を呼ぶようになり、いつの間にか『木曽のお六櫛』という名が全国に広がったのです」

翻訳文

The name Orokugushi comb developed from a legend passed down from the Edo period:

“Once upon a time, a girl named Oroku suffered from a headache. One day, when she visited Mitake Daimyojin to pray for a cure for her headache, she was told, ‘If you make a comb out of Minebari wood and comb your hair, it will heal.’ She immediately tried it and found that the headaches that had plagued her for many years had been cured. From there, it became popular all over Japan, and before long, the name, ‘Kiso Orokugushi comb’ had spread all over the country.”



お六櫛で使われるミネバリの木は、正式名称を「オノオレカンバ」と言います。これはその名の通り、斧が折れるほど硬いことに由来しています。密度が高く、水に沈むほど比重が重かったり、粘りもあったりすることが特徴です。非常に丈夫で、かつ加工時に狂いが生じにくいいため、お六櫛のように細かい歯の櫛の材料としては最適な木材になります。

また、櫛を挽いていると口の中が苦くなるほど強い抗菌作用があり、この独特な苦みが頭痛の薬効成分になって上記の伝説を引き起こしたのではないかと考える人も多いそうです。

現在は、生産量・職人の数も減っているため、毎年木祖村お六櫛組合の職人が地元の中学校などで技術指導にあたるなど、技術伝承のための取り組みを進めています。そこで今回は、木祖村お六櫛組合の組合長に話を聞きました。

翻訳文

The Minebari tree used to make Orokugushi Combs is officially called “Onoorekanba”. As the name suggests in Japanese, this is derived from the fact that the tree is so hard that it can break axes. It is characterized by its high density, the fact that it sinks in water, and its viscosity. It is very strong and does not easily deform during processing, so it is the best wood for combs with fine teeth like Orokugushi Combs.

Additionally, it has a strong antibacterial effect that happens to be bitter to the taste. Many people think that this unique bitterness is due to medicinal properties that help to heal headaches and caused the above legend.

Currently, production and the number of craftsmen are decreasing, so every year craftsmen from the Kiso Village Orokugushi Comb Association provide technical guidance at places such as local junior high schools.

So this time, we interviewed the chairman of the Kiso Village Orokugushi Comb Association.

約 0.6mm 間隔でつくられる細かい歯。お六櫛づくりに込められた高い技術。

翻訳文

Fine teeth made at intervals of about 0.6mm. High technology put into making Orokugushi combs.



——いつからお六櫛に携わっているんですか？

もうお六櫛職人になって数十年になりますね。私の家系は先祖代々櫛職人でした。小さい頃から、祖父や父が櫛を挽いてる姿は見てきたので、櫛の世界に入るのは自然な流れ。一度、別の仕事をしていたこともあるんですが、「蛙の子は蛙」ということで櫛作りの世界に戻ってきたんです。

翻訳文

——How long have you been working with Orokugushi combs?

It's been several decades since I became an Orokugushi comb craftsman. My family has been comb craftsmen for generations. Ever since I was little, I watched my grandfather and father create combs, so it was natural for me to enter the world of combs. I once had a different job, but I came back to the world of making combs because I thought, "The apple doesn't fall far from the tree."

——お六櫛づくりには、どんなこだわりを持って取り組んでいますか？

お六櫛をつくるには、20 種類以上の道具を使用しています。これらを使いやすいように自分の手で改良するのがおもしろいんですよ。

そうして自分の手に合うようにアレンジした道具を使って櫛の刃先を仕上げる作業がお六櫛づくりの醍醐味。私がつくる櫛では 8.4cm の幅に 140 本以上、およそ 0.6mm 間隔で歯をつくります。この仕上げと磨きに神経を集中させることは、先祖代々引き継がれてきたこだわりですね。

翻訳文

——What kind of commitment do you have to make Orokugushi Combs?

More than 20 types of tools are used to make Orokugushi combs. It's interesting to improve these with your own hands so that they are easy to use. The real pleasure of comb-making is finishing the teeth of the combs using tools that fit your own hand. The combs I make have a width of 8.4 cm with more than 140 teeth at intervals of about 0.6 mm. Concentrating on finishing and polishing is a commitment that has been handed down from generation to generation.



——お六櫛の魅力はどのようなところにあると思いますか？

非常に歯が細かいので、静電気が起きにくいのがお六櫛の特徴です。また使い続けていると髪の毛にツヤが出てくるといった評判もよく聞きますね。

翻訳文

—What do you think is the charm of Orokugushi combs?

They have very fine teeth, so they are less likely to create static. Also, I often hear that it makes your hair shine if you keep using it.



翻訳文

—What do you see for the future of Orokugushi combs?

With the population declining and the number of craftsmen also declining, I think the current situation is quite severe. However, I would like to continue making them and share them with the world as much as possible. Training successors is also an important task. If there are people who are interested in manufacturing and want to become Orokugushi comb craftsmen, I would like to pass on my skills to them.

—これからお六櫛づくり体験をする人にどんなことを感じてもらいたいのですか？

手挽きの櫛の繊細さを感じてほしいですね。mm 単位の調整や手作業は非常に集中力が必要です。その珍しい体験を味わってもらえたらと思います。

翻訳文

—What do you want people who experience making Orokugushi combs to feel?

I want them to feel the delicacy of handmade combs. Adjustments in millimeter units and manual work require a great deal of concentration. I hope they will enjoy this unique experience.



まとめ

豊かな森林資源を誇る木曽の地で育まれてきた伝統工芸・お六櫛。
この地に根づく伝承を感じながら、ものづくりの世界をのぞいてみてはいかがでしょうか。

翻訳文

Summary

The Orokugushi Comb is a traditional craft that has been nurtured in the land of Kiso, which boasts rich forest resources. Take a peek into the world of craftsmanship while experiencing the traditions rooted in this land.



(タイトル)

木を育て、紙を漉き、つながりを結ぶ。「和紙」と「水引」
が紡ぐ伝統文化。

翻訳文

Grow Trees, Make Paper and Connections. Traditional
Culture Spun by Washi and Mizuhiki.

(リード文)

通称「姫街道」とも呼ばれる長野県旧中山道周辺。このエリアは、農家の手仕事から生まれた数多くの伝統工芸が受け継がれています。その中で、今回は南信州地域の「ひさかた和紙」と「飯田水引」をご紹介します。

翻訳文

In the area around the old Nakasendo in Nagano Prefecture, also known as Hime Kaido, many traditional crafts born from the handiwork of farmers have been handed down. Among them are Hisakata Washi and Iida Mizuhiki from the Minami Shinshu region.

(本文)

地の利を活かして育まれた和紙と水引の歴史・文化

翻訳文

The history and culture of Japanese paper and mizuhiki, nurtured by geographical features.

長野県の南に位置する飯田市下久堅(しもひさかた)地区。良質な水と内陸性の乾燥した気候、そして丈夫な繊維を持つ楮(こうぞ)と呼ばれる樹木が育ちやすい南向きの斜面が多いことなどもあり、下久堅地区の人々の間で、和紙づくりが盛んになっていきました。

翻訳文

The Shimohisakata area in Iida is located in the south of Nagano Prefecture. The production of washi (Japanese paper) flourished among the people in Shimohisakata, partly because of the abundance of clean groundwater, and because of the inland dry climate where it is easy to grow kozo trees, which have strong fibers.



この地で作られる和紙は、強靱さがあり、その実用性の高さからさまざまなシチュエーションで使用されていきました。たとえば、下久堅地区の和紙を用いて作られるアイテムに、髪を留める「元結」と呼ばれるものがあります。強く美しい下久堅地区の元結は全国でも評判になり、江戸の両国相撲や吉原の花柳界でも重宝されていきました。

しかし、明治時代になると断髪令が敷かれ、日本伝統の髪型であった「ちょんまげ」を廃止するお触れが出ます。それに伴い、元結文化も衰退。代わりに元結の技術を活かして、結納品や装飾品で用いる「水引」の文化が栄えるようになりました。

翻訳文

Washi made here has been used in a variety of situations because of its toughness and high practicality. For example, one item made using Shimohisakata's washi paper is called motoyui, which is used to fasten the hair. Shimohisakata's strong and beautiful motoyui became popular all over Japan, and it became popular in the Sumo.

However, in the Meiji period, a decree for cutting hair was enacted, and there was a notice to abolish the traditional Japanese hairstyle chonmage (a traditional Japanese top knot). Along with that, the motoyui culture also declined. Instead, the culture of mizuhiki (Japanese knot tying),

which is used for betrothal gifts and decorations, has flourished, making use of the same technique.



苦難の時代を経て。伝統を受け継ぎ、発展させる

翻訳文

Even in times of hardship, pass on and develop tradition.

明治時代以降、安価で大量生産できる機械漉きの洋紙が流通するようになったことで下久堅地区の和紙には苦難の時代が訪れます。最盛期には約 300 軒の農家のうち 223 軒が和紙づくりを行っていたというこの地では徐々にその数が減少。1960 年代には台風の影響で和紙の原料となる楮も全滅し、和紙づくりを行う農家はいなくなっていました。

そんな中、「この地に根づく伝統文化を途絶えさせてはいけない」とかつて和紙づくりを行っていた農家を中心に発足したのが「ひさかた和紙の会」です。自ら楮を栽培したり、国内外の観光者に和紙づくり体験を提供したり、小学校の卒業証書を児童とともに和紙でつくる機会をつくったりと、和紙文化を次世代につなげるためのさまざまな取り組みを行っています。

翻訳文

In the Meiji period, machine-made Western paper that can be mass-produced at low cost became available causing Shimohisakata's washi to face a period of hardship. At its peak, 223 out of about 300 farmers were producing washi paper in this area. In the 1960s, typhoons wiped out the kozo, the raw material for Japanese paper, and farmers stopped making washi paper.

Under such circumstances, the “Hisakata Washi Association” was established mainly by farmers who used to make washi paper, saying, “We must not let the traditional culture rooted in this land die out.” They are engaged in a variety of initiatives to pass on the culture of Japanese paper to the next generation, such as cultivating paper mulberry themselves, offering washi-making

experiences to tourists from Japan and abroad, and creating opportunities to make elementary school diplomas with washi paper together with children.



水引に関しても、さまざまな担い手が伝統と技術を伝え続けてきました。その結果、下久堅地区がある飯田市の水引は、日本の生産高の 70%のシェアを誇るまでに。その伝統産業の一翼を担っているのが「関島水引店」です。積極的にワークショップを開催したり、海外展開を進めていき、2019年には COOL JAPAN AWARD 入賞という成果も挙げました。

翻訳文

As for mizuhiki, various people have continued to pass on its traditions and techniques. As a result, Iida's mizuhiki, where Shimohisakata area is located, boasts a 70% share of Japan's production. The Sekijima Mizuhiki store plays a role in this traditional industry. They actively hold workshops and promote overseas expansion. In 2019, they won the COOL JAPAN Award.



今回は、ひさかた和紙の会事務局長の羽場竜也さんと、関島水引店の関島正浩さん・直人さん兄弟に話をお伺いしました。

翻訳文

This time, we interviewed Mr. Tatsuya Haba, the secretary general of Hisakata Washi Association, and Mr. Masahiro and Mr. Naoto Sekijima (brothers), of the Sekijima Mizuhiki shop.

和紙と水引。伝統的な営みを未来につなげる担い手たち

翻訳文

Japanese paper, mizuhiki, and those who connect traditions to the future.

まず話を伺ったのは、羽場竜也さん。和紙づくりに携わるようになったきっかけや和紙づくりの醍醐味をお話してくれました。

翻訳文

The first person we talked to was Tatsuya Haba. He talked about how he got involved in washi-making and the real thrill of it.



——どのようなきっかけで和紙づくりに携わるようになったのですか？

羽場さん：

もともと下久堅地区の公民館長として活動していたこともあり、地元の伝統を守る「ひさかた和紙の会」の取り組みに参加するようになりました。

それまで和紙づくりに携わったことはなかったのですが、一度触れてみたら奥が深くておもしろくて。

岐阜の美濃での修行などを経て、この飯田市下久堅地区の地で和紙職人になりました。

翻訳文

——How did you get involved in washi-making?

Mr. Haba:

Originally, I was active as the director of the community center in the Shimohisakata area, and I began to participate in the efforts of the Hisakata Washi Association to preserve local traditions.

Until then, I had never been involved in the making of washi paper, but once I tried it, I found it very interesting and profound. After training in Mino, Gifu, I became a Japanese paper craftsman here in Shimohisakata, Iida.

——和紙づくりの魅力はどういったところにあるのでしょうか？

羽場さん：

和紙は、漉き方によって毎回微妙に表情が異なります。うまく漉けて和紙にいい表情を出せたときには、とても嬉しい気持ちになりますね。世界にひとつしかない手作りならではの風合いや温かみに出会えることも和紙に携わる魅力だと思います。

翻訳文

——What is the appeal of making Japanese paper?

Mr. Haba:

Washi has a slightly different look each time depending on how it is made. It makes me very happy when I can create a nice expression on Japanese paper by making it well. One of the charms of working with washi is that you can encounter the unique texture and warmth of handmade paper.



——和紙づくりの難しいところはどういったところにあるのでしょうか？

羽場さん：

1 年間かけて楮の木を育てて、皮を剥いて、細かく叩いて、漉きあげる和紙づくり。さまざまな工程を経ますが、すべては原料となる楮の木から始まります。そのため、いかにいい楮を育てるかがとても大切です。紙を漉く技術を磨くことはもちろん、良質な楮の木を育てる知恵を身につけなければいけないと思っています。

翻訳文

——What are the difficulties of making Japanese paper?

Mr. Haba:

It takes a year to grow a kozo tree, peel the bark, beat it finely, and make Japanese paper. It goes through various processes, but it all starts with the raw material, the kozo tree. Therefore, growing a good kozo tree is very important. In addition to improving my paper-making skills, I believe that I must acquire the wisdom to grow high-quality kozo trees.



——これからの和紙づくりについてどのようなことを考えていますか？

羽場さん：

和紙と水引は飯田市下久堅地区の宝だと思っています。この地の伝統文化として培われてきた 2 つの営みをコラボレーションさせて、いいものづくりができればいいなと思いますね。

翻訳文

——What do you see for the future of washi-making?

Mr. Haba:

I think Japanese paper and mizuhiki are treasures of Shimohisakata area in Iida. It would be great if we could combine the two activities that have been cultivated as part of the traditional culture of this region to create good products.



続いてお話をお伺いしたのは、関島水引店の関島さん兄弟。水引の可能性についてお伺いしました。

翻訳文

Next, we interviewed the Sekijima brothers of the Sekishima Mizuhiki shop. I asked about the possibilities of mizuhiki.



——どのようなきっかけで水引に携わるようになったのですか？

正浩さん：

父が水引店を創業したため、子どものときから水引が周りにある暮らしを送っていました。そのため、高校卒業後は水引の仕事に就くのは自然な流れでしたね。

直人さん：

私も真剣に仕事に向き合う父と兄の背中を見て格好良いと思い、兄が働くようになって3年後、引き寄せられるように水引の世界に入りました。

翻訳文

——How did you get involved in mizuhiki?

Mr. Masahiro:

Since my father started a mizuhiki shop, I have been living with mizuhiki since I was a child. Therefore, after graduating from high school, it was natural for me to get a mizuhiki-related job.

Mr. Naoto:

When I saw my father and brother working seriously, I thought it was cool, and three years after my brother started working, I entered the world of mizuhiki.

——水引の魅力はどういったところにあるのでしょうか？

正浩さん：

水引が結ぶのは、紙紐だけではありません。“人とのつながり”もそのひとつ。これまで水引に取り組んできたおかげで、さまざまな出会いに恵まれました。水引を介して、たくさんの人に出会うことができる、それは私にとって大きな魅力ですね。

直人さん：

水引をつくる紙紐の色は何百種類にも及びます。だから、同じかたちでも色を変えればいくつものバリエーションが生まれる。自分の想像力次第で世界に一つだけのアイテムをつくることのできるため、とても奥が深いんですよ。

翻訳文

——What is the appeal of mizuhiki?

Mr. Masahiro:

Mizuhiki work is not just about making paper knots. It is also about connecting with people. Thanks to my work, I have been blessed with various encounters. Being able to meet a lot of people through mizuhiki is one of my favorite parts about my job.

Mr. Naoto:

There are hundreds of different colors of paper cord used to make mizuhiki. So, even with the same shape, if you change the color, you can create many variations. You can actively use your imagination to craft unique products.



——水引の可能性についてどのように考えていますか？

正浩さん：

日本では、水引というと結婚式でお金を包むのし袋などに使われるのが一般的。でも、そのように限られたシチュエーションだけでなく、ピアスや洋服、ラッピングなど日常でも使ってもらえるアイテムです。そのような水引の可能性を拓いていくのが、私たちの役割だと思っています。

翻訳文

——What do you think about the possibilities and uses of mizuhiki?

Mr. Masahiro:

In Japan, mizuhiki is commonly used for wrapping money at weddings. However, it is an item that can be used not only for such limited situations, but also in everyday life as earrings, on clothing, and for wrapping gifts. We believe that it is our role to open up the possibilities of mizuhiki.

直人さん

近い将来、飯田地域にはリニア中央新幹線も開業予定です。そうすると、東京などの都市圏からのアクセスも良くなるはず。地の利を活かして実際に見て、触れて、体験する機会を提供できるようにすれば、一層可能性は広がるのではないかと思います。

翻訳文

Mr. Naoto

In the near future, the Linear Chuo Shinkansen is scheduled to open in the Iida area. In that case, access from metropolitan areas such as Tokyo should be better. If we can take advantage of our geographical feature and provide opportunities to actually see, touch, and experience things, I think the possibilities will expand even further.



——これからの水引についてどのようなことを考えていますか？

正浩さん：

水引という産業が、この地に根づいて 450 年以上。連綿と受け継がれてきた文化を途絶えさせないよう未来に繋いでいきたいですね。水引は人と人との関係性も結ぶもの。そのようなメッセージを、より強く発信していけたらと思います。

直人さん：

まずは水引に触れる機会を増やして行けたらと思います。何百種類にも及ぶ色のバリエーションから自分で選び、組み合わせて、かたちにする……そんな結びの文化をより多くの人に味わって

頂けたらと思います。

翻訳文

——What do you see for the future of mizuhiki?

Mr. Masahiro:

The mizuhiki industry has been rooted in this area for over 450 years. I would like to pass on the culture that has been handed down uninterruptedly to the future. I would like to share with the world how mizuhiki also connects people.

Mr. Naoto:

First of all, I wish I could increase the opportunity to touch and experience mizuhiki firsthand. Choose from hundreds of color variations, combine them, and shape them... I hope more people can enjoy the culture of mizuhiki-making.



まとめ

南信州の地で 450 年以上育まれてきた伝統工芸・和紙と水引。
この地ならではの営みを感じてみたい方は、一度訪れてみてはいかがでしょうか。

翻訳文

Summary

Japanese paper and mizuhiki are traditional crafts that have been nurtured for over 450 years in Southern Shinshu. Why don't you come and experience traditional activities if you want to feel the culture unique to this area?

令和3年度サステナブルな観光コンテンツ強化事業
「姫街道(中山道)の手仕事を紐解きアドベンチャー
ツーリズムの本髄に迫る旅の創出事業」

業務実施報告書

発行日 令和5年2月

発行者 国土交通省北陸信越運輸局（受託事業者：株式会社日本旅行）